

2020年度 事業報告書

(各拠点)

社会福祉法人十字の園

法人本部 2020 年度事業報告書

I. 総括

A. 精神的基盤について

毎朝の礼拝で語られる聖書の言葉を通して、定款や理念に記された「キリスト教の精神」の理解を深めることに努めた。また、行動規範の読合せを日々行って意識付けを図り、行動規範に沿った発言や行動がなされるようになった。

B. 運営方針について

1. 創立の精神（こころ）を受け継ぐための実践。

- ・理念教育委員会を通して、創立時の働きがどのように継承されているか確認できた。各自の働きが創立の精神の継承に繋がっていることを認識すると共に、関わる職員にもこの事を伝えられるよう 2021 年度に取り組んでいく。

2. 新しい組織体制への改変

- ・法人組織の 2 地区制への移行について、理事長、地区総括理事、本部長で構成する話し合いを随時開催し情報の整理・統合・共有を図り、各地区の事業運営が円滑に進められるよう努めた。
- ・2020 年度は 6 施設で施設長が交代したが、法人管理会議以外においても随時、各施設長や理事長と情報共有を図り、円滑な組織運営がなされるよう務めた。
- ・浜松地区の事務業務を地区職員が主体的に執行していくため本部職員の兼務を解消していく組織変更に取り組んだが、地区職員の休業と年度末での退職により計画通りに進まなかった。2021 年 4 月に後任職員を配置できたため、2021 年度は本部職員の地区業務兼務を解消した体制で開始し、各後任者への引継ぎを迅速丁寧に行い、地区職員が主体的に業務執行できるよう支援していく。

3. 地域との共生社会の実現

- ・浜松地区で実施される総合見学会等の地域貢献事業の企画や運営に協力した。
- ・地域の生活困窮者等のニーズに応えシオン寮や浜松十字の園職員寮の一部を提供している。

4. 採用・人材育成の取組と研修の連動による働き甲斐の創出

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により評価制度と賃金制度を結びつけた新賃金体制の職員説明を 2020 年 3 月に実施できなかったため新体制導入は 1 年遅れた。しかし、業務職の働き方や昇格基準など持ち越し議案についての結論を出し、新賃金体制に反映することができた。
- ・70 歳までの雇用機会確保が求められる時代になり 55 歳昇給停止や継続雇用制度のあり方、新賃金体制に関連した非常勤職員の評価制度のあり方等の課題を 2021 年度に取り組む。

5. 内部管理体制と中長期計画の策定により経営の健全化に向けて取り組む

- ・10 月に実施した内部監査に於いて、施設長等の法人の諸規程に対する認識度が低く感じられたとの報告があったため、コンプライアンスの意識を深めるため、研修体系も含めた実践計画を立案しこれに沿って活動することをコンプライアンス規程へ反映した。2021 年度は改定したこの規程に基づく体制整備を進め、その進捗状況を内部監査に於いて確認していく。
- ・老朽化した建物や設備の更新計画を地区ごとで話し合っているが法人全体で取りまとめた計画にすることはできなかった。2021 年度は地区ごとでの話し合いの状況も集約して中長期計画の策定を具体的に進める。

II. 事業計画の達成状況

1. 労務・人事管理

- ・事務処理の効率化、適正化を目指し、新しい技術・知識を学び、実践していく。

新型コロナウイルス感染症の影響により外部研修によるスキル向上は行えなかったが、浜松地区安全衛生委員会でYouTubeを活用した研修を開催し、with コロナの時代における研修モデルの一例を示すことはできた。

- ・法人全体のメンタルヘルス対策の実施計画の検討・立案。

実施計画が法人管理会議で承認され、2021年度より実施される。従来から実施していた施設や今回初めて実施する施設が入り混じるため、全体で一致して実施できるよう対応していく。

- ・2021年度の介護職新卒採用5名を目指して採用活動を推進する。

介護職新卒採用3名、リハビリ職新卒採用1名を採用できた。

- ・法人組織の2地区制に伴う労務管理等のフォローに注力する。

労務管理等の支援に入ったが、各労務担当の基本的な知識や業務処理の経験値にバラツキが感じられた。2021年度は基本的なスキルを習得する機会を設け、全体のスキルアップを図る。

2. 財務

- ・浜松地区の組織変更に伴う異動に関連し、経理業務の引継ぎとフォローを的確に進める。

本部経理課長が地区事務長へ異動し、法人本部長が本部経理課長を兼務する計画だったが、本部長が担当していた浜松地区の予算業務と経理課長が担っていた業務内容は互いに専門性が高く引継ぎするのに時間がかかることと、本部長が兼務するよりも専任者を配置した方が組織力の向上に繋がることを年度途中に確認し、本部経理課長は地区事務長を兼務し、法人本部長は浜松地区の予算業務を兼務する体制とした。2021年度は、地区職員から事務主任を選任し、本部経理課長の地区事務長業務の兼任を解消する人事を発出した。浜松地区の予算業務は2020年度決算がまとまり次第、地区事務主任と経理リーダーへ引き継ぐこととした。

- ・会計に関する研修に積極的に参加し、必要な知識を身につけ、実務に活かす。

オンラインによる外部研修へ積極的に参加し、必要な知識を身につけ、実務に活かした。

- ・課長職による財務・経理部会を主管し、運営する。

財務経理委員会は発足1年目であったため担当理事（本部長）が主になって企画・運営したが、2021年度は課長職が主になって活動する。

3. 総務

- ・法人内ネットワーク変更に伴う環境設定の整備を行う。

新型コロナウイルスの感染リスク回避のため、Zoomによるオンライン会議システムを導入し、集合研修や会議を開催した。移動に要する時間と経費は大きく削減したが、画面越しのコミュニケーションに不慣れなこともあり、一体感が薄くなった印象がある。

- ・ペーパーレス化に向けた検討を行う。

取組の一例として、給与明細の電子化を進めることを労務管理委員会で決定した。2022年度に給与システムの更新が行われるため、ファイルサーバー及びbeatboxの更新を含めた大プロジェクトとして準備を開始した。

- ・法人ホームページのリニューアルを円滑に進め、発信力の強化につなげる。

年度内にリニューアルし、スマートフォンでの閲覧の最適化やセキュリティの強化がなされた。今後、広報委員会を中心として更新作業のスマート化を進め、発信力の強化につなげる。

4. 職員体制（2020 年度末）

理事長 1 名、本部長 1 名、事務員（課長）2 名、非常勤理事 2 名

5. 資金収支、財務状況

（1）資金収支予算達成状況

（単位；千円、千円未満切捨て）

	収 入		支 出		収支差額	
	当初予算	実 績	当初予算	実 績	当初予算	実 績
事業活動による収支	2,894	4,160	63,690	56,442	△60,796	△52,281
施設整備等による収支	0	0	1,476	1,464	△1,476	△1,464
その他活動による収支	101,750	97,915	31,056	40,955	70,694	56,960
当期資金収支差額					8,422	3,214

※当初予算と実績差異の主な内容

- ・事業活動収支に於いては、新型コロナウイルス感染防止のため十字の園大会中止やオンラインによる研修機会が増えたことにより研修研究費支出が 2,805 千円減。ホームページリニューアルを 400 万円の予算であったが 198 万円で実施できた等が主な理由。
- ・その他活動収支に於いては、第 2 アドナイ館拠点への繰入 14,400 千円追加。松崎十字の園拠点への長期貸付 10,000 千円見送り。施設整備等積立資産支出 6,500 千円追加。浜松十字の園拠点からの繰入 3,966 千円減等が主な理由。

（2）設備投資及び積立金の状況

- ・設備投資：新たな設備投資は行っていない。
- ・積立金：施設整備等積立金 6,500 千円

（3）借入金及び借入償還の状況 ： 該当なし

6. 寄付金収入

区 分	件 数	寄付金額
入居者	1 件	10,000 円
一 般	10 件	370,000 円
合 計	10 件	380,000 円

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 安心して働き続けられる職場環境の整備

- ・新たな就業規則や給与規程等が円滑に運用されるよう担当者や委員会等と連携して対応する。
- ・報酬改定で示された各事業所における業務継続計画の整備について関係者と連携し支援する。
- ・各ハラスメント窓口担当者と連携したハラスメント対応を迅速丁寧に行うと共に「メンタルヘルスプロジェクト 2021」を推進しメンタル面も含めた職場環境づくりを支援する。

2. 法人全体の事務職員のスキル向上

- ・労務や経理等の専門スキルを高める研修を企画し実施する。

3. 内部管理体制構築の推進

- ・改定されたコンプライアンス規程に基づく体制整備を進め、内部監査で進捗状況を確認する。

4. 施設の健全な経営と中長期計画の具体的な構想作り

- ・資金の集中化、適正化と透明性の高い財務管理により、財務基盤の安定を図る。
- ・中長期計画の策定を具体的に進める。
- ・歴史資料館の今後のあり方を検討する。

5. 浜松地区事務との兼務解消による業務支援

- ・浜松地区と本部の兼務を解消した組織となるため、後任者への引継ぎと支援を適切に行う。

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2020 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 日々の礼拝は、感染防止対策をして形を変えながらも継続し守ってきた。
2. クリスマス礼拝、聖餐式にてクリスチャンでない職員にも見学の機会を与え、学ぶ場を設けた。
3. 今年度は中止してしまった追悼礼拝について職員が自ら思いを述べる場所を提供し継続の決定に至った。
4. 施設内で洗礼式を行い滅多にない機会に恵まれ、改めて創立の精神を学んだ。

B. 運営方針について

1. 地区としての一体化を進め、理念・行動規範に沿った信頼し合えるチーム作りをする
 - ・理念・行動規範を毎日の申し送りで唱和し十字の園の職員として大切にすることの共有に努めた。
2. 老朽化した建物の建て替えに向けた準備を一体的に進める。
 - ・1年間定期的に話し合いを進めてきた。できること、できないことが明確になり次への大きな一歩へ繋がった。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況・実績

1. 介護老人福祉施設・短期入所生活介護

① 利用者中心に考えられ、信頼関係を持てるチームを作る。

- ・目標管理、評価体制を作り目に見える形の取り組みを行った。チームとして取り組む認識を向上していく事が今後の課題である事が明確になった為、2021 年度も目標を継続していく。

② 自分の行動を振り返った時に利用者の笑顔があるか考えられる職員になる。

- ・報告の重要性を確認し、情報の共有が徐々にできるようになり利用者のケアへ繋がった。

③ 特養、短期入所の相談員が連携して稼働率の改善を図る。

- ・相談員同士の話し合いを繰り返し、短期入所の受入れ方法の手順書作成により多職種での連携につながり受入れがスムーズになったことで稼働率向上につながった。

2. 通所介護

① その方に合ったリハビリプログラムの提供をし、利用者の「やりたい」を引き出す。

- ・グループ活動の導入により、午前、午後ともご利用者に合った選択制リハビリプログラムを取り入れたことにより、利用者様同士のコミュニケーションも円滑になり「やりたい」につながった。
- ・実績が年度途中で落ち込んだが、グループ活動の取り組みがケアマネジャーの理解をいただけるようになり、お試し利用が増え契約へとつながるようになった。稼働率の目標には届いていないが、次年度に繋がる取り組みとなった。

② お互いの役割を明確にして同じ認識の中で信頼しチームとして支援できるようになる。

- ・ミーティングで作業療法の勉強会を実施し、みをつくしの特徴・強みの共有と理解をした結果、職員間のコミュニケーションが活発なり、チームの纏まりは増した。

B. 利用実績

(職員数は2020年度末月現在の数とする)

	特 養	短 期	通 所	事業活動収入計 職 員 数 合 計
利用定員	120 人	20 人	22 人	
利用者延数	42,793 人	6,601 人	4,649 人	
1 日平均利用者数	117.7 人	18.1 人	15.0 人	
稼働率、稼働指数	97.7%	90.4%	68.1%	
稼働日数	365 日	365 日	310 日	
単価 (一人一日当たり)	11,611 円	11,476 円	9,642 円	
介護保険事業収入	496,888 千円	75,757 千円	44,830 千円	622,672 千円
職員数 (常勤換算)	67.2 人	10.0 人	7.5 人	84.7 人

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位：千円、未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	616,355	622,672	576,770	579,081	39,585	43,590
施設整備による収支	0	0	6,590	7,722	△6,590	△7,722
その他活動収支	4,930	6,074	37,870	33,718	△32,940	△27,644
当期資金収支					55	8,224

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・事業活動による収支：収入 7,256 千円増（特養：1,354 千円減、短期：10,284 千円増、通所：7,995 千円減。新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金により、6,770 千円増）。
- ・施設整備による収支：支出 1,132 千円増（新型コロナウイルス感染症対策のための備品整備 1,138 千円増）
- ・その他活動により収支：収入 1,144 千円増（退職給付引当資産取崩収入：444 千円増、事業区分間繰入金収入：700 千円増）支出 4,151 千円減（拠点区分間繰入金支出：3,966 千円減）

2. 事業活動計算書の推移

(単位：千円、未満切り捨て)

	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度	2016 年度
サービス活動収益計	618,374	597,191	596,593	587,882	577,844
サービス活動費用計	586,883	587,032	586,332	585,773	580,119
サービス活動増減差額	31,491	10,158	10,261	2,109	△2,275
経常増減差額	32,649	13,555	12,892	4,272	△599
特別増減差額	△20,504	△70,690	△14,820	△12,960	△5,180
当期活動増減差額	12,145	△57,134	△1,927	△8,688	△5,779

(2019 年との差額が大きい要因)

- ・サービス活動収益は、介護職員等特定処遇改善加算や新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金・短期入所の稼働率向上などの収入増により 21,183 千円増となった。
- ・サービス活動費用は、介護職員等特定処遇改善手当金などの支給や新型コロナウイルス感染症対策のための費用が増加したが、研修費や修繕費等が前年度に比べ減少したため、148 千円減となった。

- ・特別増減差額は、前年度に建設仮勘定 45,900 千円をその他の特別損失で会計処理したため 50,185 千円増となった。

3 設備投資及び積立金の状況

- ・設備投資：ブラストチラー1,413 千円、スチームコンベクション 723 千円、食器洗浄機 790 千円
洋式トイレ 935 千円、天吊エアコン 407 千円、ノートパソコン 5 台 424 千円
テーブル 5 台 238 千円、カッティングミキサー189 千円、ヒムプレーヤー151 千円
紫外線殺菌庫 77 千円
- ・積立金：設備整備積立 6,500 千円

4 借入金及び借入金償還の状況

- ・元金償還 3,324 千円、利息支出 267 千円、年度末残高 40,859 千円

Ⅲ. 対処すべき課題

- 1 利用者中心に考えられ、信頼関係を持てるチームを作る。
- 2 空床ベッドの適切利用を行う。
- 3 建て替えについて浜松地区で具体的な計画を立てることを目指す。

Ⅳ利用者の状況(2020年度)

施設名 浜松十字の園

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区 分		2020年度	2019年度
入居者数	男	30人	32人
	女	88人	86人
	計	118人	118人
利用日数	男	11,387日	11,287日
	女	31,406日	31,165日
	計	42,793日	42,452日
平均入居期間	男	3.09年	3.06年
	女	3.07年	3.03年
	計	3.08年	3.03年
最長入居期間	男	24.00年	23.07年
	女	20.20年	19.02年

区 分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	83歳	81歳
	女	89歳	88歳
	計	86歳	86歳
最高年齢	男	102歳	95歳
	女	106歳	105歳
最低年齢	男	68歳	67歳
	女	72歳	67歳
出身地域	圏内	113人	113人
	圏外	4人	4人
	県外	1人	1人
平均介護度		3.34	3.31

区 分		2020年度	2019年度
入居者数	男	13人	11人
	女	19人	27人
	計	32人	38人
退居者数	男	15人	11人
	女	17人	25人
	計	32人	36人
入院者数	男	7人	22人
	女	11人	17人
	計	18人	39人
入院日数	男	225日	539日
	女	262日	160日
	計	487日	699日

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	8人	9人
要介護度2	17人	15人
要介護度3	42人	43人
要介護度4	31人	32人
要介護度5	20人	19人

入居前住居

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	27人	21人
病 院	2人	4人
老 健 施 設	1人	5人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	2人	8人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	29人	34人
帰 宅	1人	0人
病院へ転出	2人	3人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年度	2019年度
短期入所生活介護事業	延 人 数	450	574	526	606	602	634	563	559	602	526	458	501	6,601人	5,972人
	一 日 平 均	15.0	18.5	17.5	19.5	19.4	21.1	18.2	18.6	19.4	17.0	16.4	16.2	18.1人	16.3人
	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
通所介護事業(一般型)	延 人 数	394	372	352	332	323	325	363	397	408	442	441	500	4,649人	5,034人
	一 日 平 均	15.2	14.3	13.5	12.3	12.4	12.5	13.4	15.9	15.7	18.4	18.4	18.5	15.0人	16.3人
	営 業 日 数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	310日	309日

Ⅴ. 職員の状況

職種		配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員		7	1	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0
相談員		2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	40	20	18	2	22	18	1	0	4	1	-3	-1
	看護職員	6	1	1	0	5	1	0	1	0	0	0	1
	機能訓練職員	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
栄養士		2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
調理師・員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医師		0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計		61	34	24	7	37	20	1	1	4	1	-3	0
在宅事業	通所(一般)	5	10	2	4	3	6	2	1	2	0	0	1
	小 計	5	10	2	4	3	6	2	1	2	0	0	1
合 計		66	44	26	11	40	26	3	2	6	1	-3	1

Ⅵ. 寄付金収入

区 分	件数	寄付金額
入 居 者	1件	10,000円
入居者家族	3件	70,000円
遺 族	5件	230,000円
在 宅	1件	20,000円
一 般	27件	238,091円
業 者	0件	0円
職 員	17件	330,046円
役 員	0件	0円
合 計	54件	898,137円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

* 現員は2021年3月31日現在。

就退職は2020年度内増減。

総合福祉施設 御殿場十字の園 2020 年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

新型コロナウイルスの感染拡大の中、常に感染予防に最大限の注意を払う 1 年であった。そのような状況下ではあったが御殿場教会の変わらぬ奉仕もあり、日々の礼拝を守りつつ祈りと感謝を持って一日を始めることができた。また、十字の園の行動規範の朝の読み合わせ等により法人理念の共有、一人ひとりを大切にしたいサービスの提供に努めた。

B. 運営方針について

1. 利用者一人ひとりを大切に、その人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。

どの職員も同じケアができる土台作りには手順書の作成を行い、浸透を図った。手順書は作成途中のため次年度も継続的に手順書の作成及び一人ひとりを大切にするケアを行う。

2. 多様なニーズに対し断らないワンストップで対応できる拠点施設として、総合的に支援する。

困難事例も含めて様々なニーズに対応するために事業所間連携を強め、施設全体で対応した。

3. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めよう。

外部研修が制限される中オンライン研修受講の設備整備を行い、オンライン研修の機会を増やし職員の資質向上に努めた。また、資格取得支援も行い介護福祉士に 2 名が合格した。

4. 安定した経営基盤を構築する。

予算を常に意識した経営を行うことにより、現金預金対事業活動支出比率を高めることができ、財務基盤の強化を図ることができた。

5. 施設や地域の課題に敏感に気づき解決に向け取り組む。

外壁補修工事は安全に計画通り完了し、施設の外観の改善及び防水等耐久性が高まった。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

<介護保険事業>

1. 介護老人福祉施設

① 5S 活動の定着及び業務手順書の整備浸透を図り、業務改善やサービスの均質化を進める。

② ノーリフトケアの推進や業務前ストレッチなど徹底し、職員の腰痛予防、負担軽減を図る。

5 S を継続的に行い職場環境の改善を実施し、整理整頓によるサービスの均質化に効果が見られた。新たな課題も見え次年度も継続的に行っていく。手順書内容を増やし整備し、浸透を図る為に次年度の新人研修へ活用する形ができた。ノーリフトケアの推進では、2F 浴室リフト導入し、職員の腰への負担軽減、利用者からも大変喜ばれた。

2. 短期入所

① 一人一人に合わせた居室の整備や生活リズムを尊重し、自宅と同じように過ごせるよう支援する。

② いつでも緊急時の対応や受け入れができるよう業務手順所等の整備浸透を図る。

利用中の不安をできるだけ解消できるように声掛けし、できる限り自宅のリズムで過ごす事ができ、自宅と同じように過ごす支援の推進ができた。今後も一人ひとりに合わせた居室環境や対応を継続していきたい。また、急な利用依頼に対してはその日の出勤職員で対応できるように対応方法等の説明をして受け入れはできたが、業務手順書はまだ完成していない。

3. 通所介護

- ① 柔軟な送迎対応や支援メニューの充実化を図るとともに、ケアマネ等と細目に連絡を取り合い、一人一人に合った支援に努める。また、利用率の向上を図る。
- ② 食前の口腔体操の実施や機能訓練の強化充実を図り、生きがいや自立支援に向け取り組む。
利用者の支援メニューの充実については、ケアマネと細目に連絡を取り、屋外歩行訓練の強化や体操の内容の充実（骨盤体操など）を図り、一人ひとりにあった支援を行った。利用率については新型コロナウイルスの影響で平日利用率 79.1%と目標の 80%には届かなかった。食前の口腔体操実施による口腔機能の維持向上ができ、日常生活で買い物等ができるようになり、生きがいや自立支援に繋がった。

4. 訪問介護

- ① 「共に行う」意識を職員間で共有しお互いに向上しあえる職場を築く。
- ② 利用者のモニタリングを丁寧に実施するとともに、ケアマネ等と細目に連絡を取り合い迅速に対応し、一人一人に合った支援に努める。また、利用率の向上を図る。
コロナ禍の1年であったが職員、登録ヘルパー間の情報共有は会議やメールを利用して細かく情報共有する事ができ、支援方法の相談や検討などコミュニケーションを円滑に図るように取り組んだ結果、お互いに向上しあえる職場を築けた。利用者情報が多く集まり、モニタリングを丁寧に行うようになり、サービス提供責任者が必要に応じてケアマネ等に細目に報告相談する形が出来てきた。利用率の向上は、利用者も入退院が少なく、利用回数増などもあり、稼働率前年度比 112%、総合事業前年度比 130%（共に回数ベース）を達成できた。

5. 認知症対応型通所介護

- ① 他施設見学や研修に参加し職員の認知症に関する理解を深め専門性の向上を図る。
- ② 在宅での生活が継続できるよう他部署と連携し、利用者、家族の生活環境に沿って支援する。
コロナ禍で見学や研修ができず、参考文献を配布する等、認知症への理解を深める取り組みを行った。学びを継続し、実践的な対応につながるよう内部研修に取り入れていきたい。在宅での生活が継続できるよう、他部署と連携して提供時間や送迎時の支援等ニーズに合わせて対応すべく工夫し実行した。

6. 認知症対応型共同生活介護

- ① グループホームの意義を職員間で共通理解し、一人一人主体的にいきいきとした生活が送れるよう支援する。
- ② 利用者の重度化や看取り対応の強化を図るため職員の資質向上や医療的ケアの充実を図る。
毎月開催している職員会議でグループホームの意義、身体拘束、リスクマネジメントなどさまざまな視点から勉強会やグループワークを実施した。その結果、少しずつではあるが職員の言葉や接し方などに変化がみられるようになった。今年度は新型コロナウイルス感染防止に関する対策の周知徹底に重点を置いた為、その他の医療的ケアに関する知識習得の場を設けられなかったため次年度継続して行いたい。

7. 居宅介護支援

- ① ニーズを断らず迅速丁寧に対応し、また、地域包括ケアシステムの構築に沿って支援する。
- ② 重篤な利用者、看取りまで対応できるよう医療機関等との連携や職員の資質向上を図る。
今年も特定事業所の算定要件を満たすために努めてきた。また、医療機関にて医師も含めたカンファレンス参加回数（一部 Zoom カンファレンス）も増えた。他にも難病・看取り・癌末期・重度障害等断ることなく支援することができた。

8. 地域包括支援センター

- ① 住民マップ作成を通し地域を知り地域住民や行政など関係機関と協力して地域づくりを推進する。
- ② 地域ケア会議の理解促進や入退院時の連携方法等の標準化に向け取り組む。

新型コロナウイルス感染拡大により、地域ケア会議は1回の開催のみとなった。また、住民マップ作成も実施せず。元気になろう会や地区サロンなど地域活動も中止となり、地域との関わりが減少した。地域包括支援センターだよりや公民館だよりは継続して発行・記事掲載し、地域とのつながりを維持することに努めた。

<障害者総合支援事業>

(介護給付)

9. 居宅介護、同行援護

- ・各障がいや難病等の理解を深めつつ、多職種と連携し障がい者への介護支援等の充実を図る。
- 全体件数が少ない中で、相談支援事業所と連携を図りつつ他職種間で障がいや難病等の理解を深め、利用者の満足度を高めることができた。

10. 短期入所

- ・障がいに関する理解を深め、一人一人のニーズを理解、把握し個別対応していく。

障害のショート利用者は一日平均0.3人（利用者2人位）と少ないが、その利用者に合わせた散歩やボール投げ等のレクをすることができた。障害理解については来年度も継続的に研修等を通してグループとして学んでいきたい。

11. 地域活動支援センター

- ① やっぱりと思って足を運び、またねと笑顔で帰られるような居場所をつくる（やっぱりくろっちょ大作戦）。
- ② 共に成長させていただく共生の場として、利用者と一緒に様々なことに挑戦する（まだ見ぬ先へ大作戦）。

2つの目標を掲げコロナ禍でしかできないことと捉えチャレンジしてきた。規制が多い世の中でコロナを正しく恐れて活動をしていこうと安全に配慮した買い物や地元の居酒屋等のテイクアウト、事業所内調理とコロナをネガティブにとらえず、共に過ごす時間は今まで以上のかけがえのないものになった。

12. 移動支援

- ・円滑な外出支援や通院介助等を行い、地域での暮らしを支える。

知的障害者や車椅子の利用者の外出支援（映画館等）を行い、ニーズに応えながら地域での生活を支えた。

13. 相談支援

- ① 多職種や他機関との情報の共有を徹底し、一人ひとりと向き合い寄り添った支援をする。
- ② 利用者の声に耳を傾け、「伝える」責任を担い、関係機関と連携しより住みやすい街づくりに繋げる。

新型コロナウイルスの流行の状況下で、外出する事や外部の人が訪問してくることにに対して利用者が不安を感じる中、可能な限り安全対策をし、訪問や電話でのやり取りをしてきた。また、介護保険との間で連携し、制度の壁を越えた支援ができるようになってきた。

＜その他の事業＞

14. 診療所

- ① 積極的に利用者と関わりつつ、多職種と連携し看取りや緊急時の対応の強化を図る。
- ② 年2回の感染症に関する研修会の開催及び標準予防策の徹底を図り、感染症の流行を防ぐ。
- ③ 口腔・機能訓練について、介護職へのアドバイスや連携をし、口腔内器質維持や身体機能の向上を図る。

多職種と連携し看取りを積極的に行い7名看取ることができた。昼食時は見守り、食事介助に努め誤嚥時など動ける看護師みんなで対応した。感染予防は特養で実習を行いガウンテクニックがスムーズに行う事ができるようになった。感染症の研修は県、社協主催の勉強会に2名が参加した。全体では動画を利用した勉強会を行った。また、伝達ノートを作り、ポジショニング、歩行、ADL動作などの相談のやりとりも増えた。連携の達成度は70%ほどまで向上したと思われる。部署内勉強会もでき、次年度も連携強化、相談・支援技術の向上に継続して努めていきたい。

15. 介護タクシー事業

- ・困難事例や緊急時の利用を積極的行う。

運転手の人員が限られている中、対応できる車両を最大限に活用し緊急時等の対応が出来た。

16. ボランティアの受け入れ

- ・ニーズに即応するよう調整すると共に、行事等の補助や見守りボランティアを積極的に受け入れする。

今年度はコロナの影響で多くのボランティア受入れが中止になったが、施設の庭のバラの一番大変な冬の剪定作業をボランティア協力により終えることができた。また来園できない団体より雑巾の寄付が多々あった。

17. その他

- ① 地域の介護力向上に向け市と連携し家族介護者教室を開催する。

御殿場市と連携して家族介護教室を2回開催し地域の介護力向上を図った。

- ② 給食：簡単に気軽に行える食のイベントの開催、食事摂取状況のこまめな確認、職員に対するトロミ剤の正しい使い方講習会の開催、給食委託会社と共有、連携を図り、よりよい食事提供をする。

食のイベントについて開催数は減らさざるを得なかったが園遊会とクリスマス会食で実施し、お菓子パーティーは好評だった。トロミ剤については正しい使い方の情報発信を行い、介護現場で実行できつつある。給食委託会社との連携については円滑に取れているがよりよい食事の提供に向けて継続してコミュニケーションを図っていきたい。

- ③ 事業所や他部署のバックアップにつながるよう事務所業務の資質向上を図る。

年度途中の人事異動などがあったが、業務変更などの中でも業務を遂行できるように努めた。また、コロナ禍において感染予防の物品購入等他部署の業務が円滑に行われるようバックアップを行った。

- ④ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底、壁紙の張替えや設備備品の更新を順次行い、清潔感のある居心地の良い施設環境を維持整備する。

5Sについては、今年度は整理・整頓に力を入れ、また壁紙の貼り替えについては完了し施設環境整備が進んだ。

- ⑤ 「腰痛欠勤者ゼロ」を目指し、安全衛生おける職員相談体制の充実化、腰痛予防を推進する。

「腰痛欠勤者ゼロに」については1名ヘルニアで欠勤者が出た。また、腰痛予防の推進については腰痛予防ベルトの購入費一部負担を継続して行った。

B. 利用実績

	特養	短期入所	通所介護	認知症対応型通所介護	訪問介護	居宅介護支援	地域包括支援センター
利用定員	107人	11人	45人	12人			
利用者延数	38,794人	3,779人	10,248人	2,927人	5,351時間	2,566	
一日平均利用者数	106.2人	10.3人	28.3人	9.4人	14.7時間	213.8件	
稼働率、稼働指数	99.2%	93.6%	62.9%	78.3%			
稼働日数	365日	365日	362日	310日	365日	12ヵ月	365日
単価（一人一日当たり）	11,646円	15,880円	9,515円	12,998円	4,842円	15,633円	
収入(千円) ※	451,801	60,011	97,513	38,048	25,910	40,115	58,050
職員数（常勤換算）	65.62人	6.81人	13.77人	5.45人	5.31人	6.15人	7.8人
	地域活動支援センター	障がい者短期入所	障がい者居宅介護	同行援護	障がい者移動支援	障がい者相談支援	介護タクシー
利用定員	15人						
利用者延数	2,406人	122人	553時間	462時間	94時間	891件	1,298回
一日平均利用者数	9.3人	0.3人	1.5時間	1.2時間	0.2時間	2.4件	4.4回
稼働率、稼働指数	62.0%						
稼働日数	256日	365日	365日	365日	365日	365日	293日
単価（一人一日当たり）	7,844円	20,868円	5,287円	6,748円	3,489円	11,207円	923円
収入(千円) ※	18,874	2,546	2,924	3,118	328	9,986	1,199
職員数（常勤換算）	4.8人	1人	0.53人	0.45人	0.01人	1人	0.4人
	グループホーム	事業活動収入・職員数合計	※通所介護の定員は平日45人、土曜日25人、日曜15人で、表内の稼働率は45人定員として計算。平日のみの稼働率は79.1%。				
利用定員	18人						
利用者延数	6,541人						
一日平均利用者数	17.9人						
稼働率、稼働指数	99.4%						
稼働日数	365日						
単価（一人一日当たり）	14,022円						
収入(千円) ※	91,723	909,051	※収入は介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入				
職員数（常勤換算）	17.16人	136.26人					

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

（単位；千円、未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	914,306	909,051	838,201	860,613	76,105	48,437
施設整備による収支	50,000	41,467	68,175	22,442	△ 18,175	19,024
その他活動による収支	14,656	3,831	41,653	38,072	△ 26,997	△ 34,241
当期資金収支					30,933	33,220

注1：事業活動による収入は、特養や訪問介護などの利用増があるも、通所介護や認知症デイの利用が伸び悩み、予算比 5,255 千円の減収となった。

注2：事業活動による支出は、職員の退職による人件費の減少があるも、当初予算で施設整備による支出として計上していた外壁補修工事を事業活動による支出に計上したことにより予算比 22,412 千円の増加となった。

2. 事業活動計算書の状況

(単位 ; 千円、未満切捨て)

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
サービス活動収益計	904,273	889,020	880,792	858,293	837,336
サービス活動費用計	879,017	846,074	820,059	800,421	791,323
サービス活動増減差額	25,255	42,946	60,732	57,871	46,013
経常増減差額	25,542	43,466	60,702	57,864	45,690
特別増減差額	△ 20,735	△ 22,243	△ 21,214	△ 27,216	△ 19,810
当期活動増減差額	4,806	21,222	39,488	30,648	25,879

注1 : サービス活動収益は、特養や訪問介護などの収入増により前年比で 15,253 千円 (1.7%) の増収となった。

注2 : サービス活動費用は、職員の退職による人件費の減少が 17,989 千円あるも外壁補修工事 (44,000 千円) などにより全体で 32,943 千円 (3.8%) の増加となった。

注3 : サービス活動増減差額は、昨年比で 17,690 千円 (41.0%) の減少となった。

3. 設備投資及び積立金の状況

・固定資産取得等

リフト付きシャワーキャリー他 2,934 千円、浴室改修工事 2,002 千円
 アルト 3 台 (790 千円、780 千円、820 千円)、常温配膳車 234 千円
 パススルー冷蔵庫 396 千円、汚物除去機 935 千円

・高額修繕等

外壁塗装工事 44,000 千円、変電設備 730 千円、自動ドア 627 千円
 フライトコンベア 258 千円、煙感知器改修 508 千円

4. 借入金及び借入償還の状況

- ・借入金 : 新規借入 40,000 千円 (外壁補修のため民間金融機関より借入)
- ・当期償還金 11,512 千円、年度末残高 128,963 千円

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 老朽化した浴槽・設備の更新
2. 業務の効率化や円滑化等のため導入したインカムや介護記録ソフト等の円滑な運用
3. 特養の居住環境の整備や多床室についてプライバシー確保のための改修等

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	30人	31人
	女	77人	76人
	計	107人	107人
利用日数	男	10,833日	10,881日
	女	27,961日	27,922日
	計	38,794日	38,803日
平均入居期間	男	4.06年	4.00年
	女	3.05年	3.05年
	計	4.01年	3.07年
最長入居期間	男	19.01年	18.01年
	女	14.00年	22.06年

区分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	80.5才	79.2才
	女	90.2才	88.5才
	計	87.5才	85.8才
最高年齢	男	98.0才	97.0才
	女	102.8才	101.8才
最低年齢	男	52.5才	51.5才
	女	71.1才	70.1才
出身地域	圏内	92人	90人
	圏外	11人	14人
	県外	4人	3人
平均介護度		3.45	3.59

区分		2020年度	2019年度
新入居者数	男	5人	15人
	女	12人	32人
	計	17人	47人
退居者数	男	6人	13人
	女	11人	33人
	計	17人	46人
入院者数	男	6人	9人
	女	15人	15人
	計	21人	24人
入院日数	男	170日	136日
	女	349日	340日
	計	519日	476日

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	8人	9人
要介護度2	8人	8人
要介護度3	34人	38人
要介護度4	27人	29人
要介護度5	30人	23人

入居前住居

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	13人	27人
病 院	2人	6人
老 健 施 設	0人	1人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	1人	3人
他 施 設	1人	10人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	13人	30人
帰 宅	0人	0人
病 院 へ 転 出	4人	7人
他施設へ転出	0人	9人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年度	2019年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	291	322	292	321	348	327	327	321	317	325	278	310	3,779人	3,679人
	平 均 人 数	9.7	10.4	9.7	10.4	11.2	10.9	10.5	10.7	10.2	10.5	9.9	10	10.4人	10.1人
	開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
通所介護事業(一 般 型)	利用延人数	865	882	961	957	863	874	871	823	847	769	751	785	10,248人	10,329人
	平 均 人 数	28.8	28.5	32	30.9	27.8	29.1	28.1	27.4	27.3	27.5	26.8	25.3	28.3人	28.5人
	開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	28	28	31	362日	362日
通所介護事業(認知症対応型)	利用延人数	233	205	233	240	245	245	268	268	261	233	244	252	2,927人	3,231人
	平 均 人 数	9	8	9	9	9	9	10	11	10	10	10	9	9.4人	10.4人
	開 所 日 数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	310日	310日
認知症対応型共同生活介護	利用延人数	540	558	540	557	534	538	558	540	558	556	504	558	6,541人	6,458人
	平 均 人 数	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18	31	17.9人	17.7人
	開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
訪問介護事業	訪 問 回 数	452	453	510	548	525	534	580	534	566	526	537	618	6,383件	5,455件
	訪問延時間	380	389.5	423.5	470.7	432	450.5	487	453.5	474.5	443	445	502	5,351時間	4,799時間
居宅介護支援事業	作 成 件 数	213.5	204.5	214	221	212.5	220	214.5	216	215	203.5	209	222.5	2,566件	2,461件
地域包括支援センター事業	総合相談件数	992	986	1,188	906	1,017	1,097	1,012	1,088	1,098	939	966	1,063	12,352件	13,571件
	予防支援件数	238	238	248	251	243	247	267	271	267	263	270	269	3,072件	2,727件
障がい者短期入所事業	利 用 人 数	8	9	6	8	15	21	15	10	13	10	2	5	122人	168人
障がい者居宅介護事業	訪問延時間	42.5	47.5	47	67	55	66.5	58.5	34.5	39	33	25.5	37	553時間	699時間
障がい者同行援護事業	訪問延時間	36	38.5	32	33	50	49.5	62.5	41.5	44	23.5	26	25.5	462時間	702時間
障がい者移動支援事業	訪問延時間	6.5	8.5	8	5	7	12.5	8.5	8	8.5	4	8	9	94時間	236時間
障がい者地域活動支援センター事業	利用延人数	204	189	224	212	137	203	213	197	219	183	191	234	2,406人	2,788人
	平 均 人 数	9	9	10	9	8	9	10	9	10	9	10	10	9.4人	10.8人
	開 所 日 数	22	21	22	23	18	22	22	21	22	20	20	23	256日	258日
障がい者相談支援事業	相 談 件 数	79	22	122	81	89	94	113	54	61	56	53	67	891件	1,099件
生きがいサービス	利 用 人 数													0人	0人
介護タクシー	輸 送 回 数	89	106	128	103	115	115	123	109	108	89	100	113	1,298回	1,507回
持ち帰り弁当	食 数	108	115	135	140	119	136	144	124	122	125	99	103	1,470食	1,230食

V. 職員の状況

職種		配置		男		女		就職		退職		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施 設 長		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員		4	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
相 談 員		2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	41	12	20	5	21	7	2	5	3	1	-1	4
	看護職員	3	6	1	0	2	6	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医 師		0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		1	8	1	3	0	5	0	1	0	0	0	1
小 計		59	28	28	10	31	18	2	6	3	1	-1	5
在宅事業	通所事業等	15	14	4	3	11	11	0	0	3	1	-3	-1
	訪問介護	5	9	1	0	4	9	0	0	0	0	0	0
	居宅支援	5	1	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0
	包括支援	8	0	1	0	7	0	1	0	1	0	0	0
	グループホーム	13	4	4	0	9	4	0	2	2	0	-2	2
小 計		46	28	10	3	36	25	1	2	6	1	-5	1
合 計		105	56	38	13	67	43	3	8	9	2	-6	6

* 現員は2021年3月31日現在 就退職は2020年度内増減

Ⅵ. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	2件	1,510,000円
入居者家族	5件	315,000円
遺族	0件	0円
在宅一般	2件	120,000円
役員	23件	263,759円
職員	1件	10,000円
業者	1件	20,000円
合計	0件	0円
合計	34件	2,238,759円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）御殿場アドナイ館 2020 年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

新型コロナウイルスの感染拡大の中、常に感染予防に最大限の注意を払う 1 年であった。そのような状況下ではあったが御殿場教会の変わらぬ奉仕もあり、日々の礼拝を守りつつ祈りと感謝を持って一日を始めることができた。また、十字の園の行動規範の朝の読み合わせ等により法人理念の共有、一人ひとりを大切にしたいサービスの提供に努めた。

また、「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお『主の山に備えあり』と言う。」創世記 2 2 章 1 4 節。主が備えてくださったこの施設に住む者が、安心して心豊かに生活が出来るようにと、入居者のきめ細かな生活支援に努めた。

B. 運営方針について

1. 入居者が明るく楽しく心豊かに生活できるよう支援する。

感染に十分に配慮しながら定期的に散歩会、健康体操を行った。また、毎年恒例の遠足やお花見などは中止せざるを得なかった。そのような中で、茶話会などの入居者の交流の場については感染予防に配慮しながら開催できた。

2. 入居者の余暇の充実や入居者同士の互助を促進し生活の質の向上を目指す。

新型コロナウイルスの影響で会うことができない家族との交流の場を設けるためにオンライン面会の体制を整えた。入居者同士の互助については食事の配膳や下膳について入居者間で助け合いながら行うなど、互助の雰囲気が続いている。

3. 職員のソーシャルワーク実践力を高め、地域の様々な生活困窮者への支援に努める。

満足度調査を行い、入居者の要望などを聞く取り組みを行った。

4. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めよう。

今まで職員体制の関係で外部研修に参加できなかったがオンライン研修の機会が増え、受講する機会を作ることが可能になった。

5. 入居希望者の増加を図り健全な経営に努める。

外部の公的機関や他事業所に訪問する機会が少ない中、電話などで連絡を取るなどの連携を深め、入居希望者の確保ができた。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

各種の事業について、生活の充実をはかる為に、以下のことに取り組んだ。

1. 利用者の健康維持、向上に努める。

① 健康体操教室を月 2 回、散歩会を月 1 回は継続的に開催する。

② 要介護者等への日常生活支援サービスの充実及び他職種への連携を図る。

③ 契約当時の家族や保証人等の高齢化に対し、再度、緊急時の対応や保証人の確認をする。

月 2 回の健康体操と散歩会を実施し、健康維持に努めた。要支援、介護者の方々への日常支援サービスについては、本人と事業所との連絡を担当ケアマネ及び相談員等と連携を図った。保証人の確認については新型コロナウイルスについてのお知らせ等を活用し、郵送で確認を行った。

2. 生活の充実を図る。

- ① カラオケクラブ、茶話会（お菓子作り等）、気楽会（外食等）、春秋遠足、毎月の親睦会の充実を図り、楽しみながら入居者同士の交流の促進及び、体力維持や心の平安に繋げる。
- ② 買い物などの送迎サービスを週3回程度定期的に行う。
- ③ 利用者同士の助け合いやボランティア活動を尊重し互助の関係を促進していく。
- ④ 1人では買物など外出が難しくなっている方への外出・買い物付添い支援を月2回実施する。
春秋のドライブや毎月開催のカラオケは新型コロナウイルス感染予防として今年度は中止となった。買物送迎は通常の買物送迎と付添い買物送迎を実施し、入居者の生活の充実を図った。施設内リネン室の洗濯たたみボランティア活動へ毎週参加できるよう支援した。

3. 入居待機者の確保を図る。

- ① 御殿場十字の園ホームページや機関誌に、入居者・待機者募集と施設案内を掲載する。
- ② 市内医療機関や介護事業所及び県外へもパンフレット等を送付する。
- ③ 待機者に対して定期的に状況確認や現在の待機状況等についてお知らせしていく。
感染予防の為直接事業所へ伺うことはせず、電話や来館時に挨拶をするなどで対応した。入所申込者は7件（前年度と同件数）。

4. 他職種、他事業所との連携の強化に努める。

- ① 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、医療機関や関係機関との連携を強化する。
2020年度は入居者の体調の変化による入院が多く、病院の相談員との連携を図り円滑に進める事が出来た。要介護申請を行う入居者に対しての地域包括支援センターとの連携や行政への申請も滞りなく行う事が出来た。

B. 利用実績

	ケアハウス
利用定員	30人
利用者延数	10,950人
一日平均利用者数	30人
稼働率、稼働指数	100.0%
稼働日数	365日
単価(一人一日当たり)	5,013円
老人福祉事業収入	54,893千円
職員数(常勤換算)	3.4人

C. 資金収支及び財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位；千円、未満切捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	63,116	54,893	53,586	61,686	9,530	△ 6,793
施設整備による収支	0	0	24,871	200	△ 24,871	△ 200
その他活動による収支	27,000	16,090	11,612	5,308	15,388	10,782
当期資金収支					47	3,789

注1：事業活動による収入は入退去者が少なかったため当初予算で見込んだ入居一時金の収入と実績に差異が生じている。

注2：事業活動による支出は外壁補修工事について、当初予算では施設整備による支出を予定していたが実績では事業活動による支出で計上したため差異が生じている。

2. 事業活動計算書の状況

(単位；千円、未満切捨て)

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
サービス活動収益計	54,326	52,426	52,780	53,811	54,570
サービス活動費用計	65,571	43,515	43,078	43,540	45,037
サービス活動増減差額	△ 11,245	8,911	9,702	10,270	9,532
経常増減差額	△ 11,218	8,916	9,639	10,165	9,428
特別増減差額	△ 1,100	△ 7,517	△ 7,797	△ 7,776	△ 7,641
当期活動増減差額	△ 12,318	1,399	1,842	2,389	1,787

注1：サービス活動収益の増加は新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金によるものである。

注2：サービス活動費用の増加は外壁補修工事によるものである。

3. 設備投資及び積立金の状況

- ・設備投資：空気清浄機：200 千円
- ・高額修繕等：外壁補修工事 22,000 千円
- ・積立・取崩等：長期預かり金積立資産取崩 2,760 千円、長期預かり金積立 2,700 千円、
修繕費積立 1,000 千円

4. 借入金及び借入償還の状況

- ・借入金：なし
- ・当期償還金：なし

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 要支援や要介護者が年々増加傾向にあり病院及び他事業所との連携が今後さらに重要となる。
2. 施設内の浴槽、壁紙、談話室カーペットの劣化。

IV. 利用者の状況(2020年度)

施設名 御殿場アドナイ館

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	5人	5人
	女	25人	25人
	計	30人	30人
利用日数	男	1,825日	2,197日
	女	9,125日	8,783日
	計	10,950日	10,980日
平均入居期間	男	6.05年	6.05年
	女	4.02年	4.07年
	計	4.07年	5.00年
最長入居期間	男	12.09年	13.02年
	女	9.06年	12.07年

区分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	76.7歳	75.7歳
	女	84.4歳	83.4歳
	計	83.1歳	82.1歳
最高年齢	男	88歳	87歳
	女	95歳	91歳
最低年齢	男	70歳	69歳
	女	52歳	51歳
出身地域	圏内	16人	16人
	圏外	6人	6人
	県外	8人	8人
平均介護度		1.19	1.39

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	0人	1人
	女	2人	4人
	計	2人	5人
退居者数	男	0人	3人
	女	2人	2人
	計	2人	5人
入院者数	男	1人	3人
	女	4人	3人
	計	5人	6人
入院日数	男	65日	62日
	女	121日	174日
	計	186日	236日

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	21人	21人
要 支 援	4人	3人
要介護度1	1人	2人
要介護度2	2人	1人
要介護度3	1人	2人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人
重度障害	1人	1人

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	2人	5人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	0人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	0人	1人
帰 宅	0人	1人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	1人	2人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

実施なし

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤
施 設 長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相 談 員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0
	看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医 師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	5	1	3	0	2	1	1	0	0	0	0	0
合 計	5	1	3	0	2	1	1	0	0	0	0	0

*施設長,事務員,栄養士は特養兼務

*現員は2021年3月31日現在 就退職は2020年度内増減なし

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	0件	0円
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	1件	4,789円
合計	1件	4,789円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

特別養護老人ホーム 伊豆高原十字の園 2020 年度事業報告書

I. 総 括

A. 理念の継承、精神的基盤について

キリスト教福祉に関する研修会が中止となり参加し学ぶ機会がなかったが、施設内での礼拝を地域の教会の牧師や教会員の方にご奉仕いただき、また、数名の職員が順番で担い守ることができ、祈りと感謝の時を職員と共有した。また、法人の理念教育委員会を通じ参加者が理念等の考えを深める機会となった。

B. 運営方針について

1. 職員一人ひとりが福祉職として求められるスキル、能力が向上できるよう研修計画を確立する。

施設内において年間研修計画に基づき職員一人ひとりが福祉職員として求められる知識、技術の向上に取り組んだ。また、新職員研修や中堅職員研修を開催し、各階層に応じて学び合った。感染対策のため外部の研修機会が少なかったが、認知症介護実践者研修へ1名が参加し、喀痰吸引等二号研修は施設内の実地研修のみで2名の職員が修了した。職員の自主研修をサポートする自己啓発援助制度（SDS）について職員にニーズ調査を実施、8割以上の職員がSDS制度を必要と感じているといった結果であった。今後、制度の構築に向け検討していく。

2. 物的環境整備だけではなくハラスメント予防対策も推進し、心も身体も働きやすい職場環境を整える。

離床センサー付き低床ベッド10台を導入し、入居者の状態に応じた事故防止対策を図り、また、iPad記録システムを全ユニットと看護室、生活相談室、栄養課に導入しICT化を進め業務の効率化等に取り組んだ。また、ハラスメント研修を通じ、主任やリーダーが中心となってグループワークを行い、一緒に働く仲間として「気づかい」「承認」「感謝」を忘れず職員全員で取り組むことを「私たちの行動指針」として策定した。

3. 居宅介護支援事業所を統合する他、各事業所、部署において合理化を推進する。

居宅介護支援事業所の伊豆高原十字の園居宅支援事業所とケアプランセンター一碧の統合による効率化や支援対応力の強化及び資質向上に向け検討し、2021年度より本体施設内にある伊豆高原十字の園居宅介護支援事業所に統合することとした。

4. 対島地域ふるさと協議会及び地域住民や関係団体と共に、地域共生社会に向け具体的に協働する。

新型コロナウイルス感染症のため対島地域ふるさと協議会と協働で開催を予定していた住民向けの研修会等が実施できなかったが、関係機関や団体とのネットワーク会議等を通じ地域課題の把握や整理を行い、地域福祉の推進に取り組んだ。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設事業

・生活支援室：安全で快適な生活の場を提供するため、リスクマネジメントを機能させる。

アクシデント報告書様式を見直したとともに、ヒヤリハット事例を1人2件以上提出するようになったことで、入居者の普段の様子等を注意深く見守ることにつながり、事故件数が前年より減少した。

・看護室：入居者一人ひとりの最晩年の時に、全力で寄り添えるよう、他部署と共に看取り介護について学びを深める。

感染症対策のため思うように家族の面会が出来なかったが、連絡を密にして一人一人の意向に沿った看取り介護を他部署と連携して実施した。また、他部署とともに医療観点における高齢者の特徴や褥瘡予防などについて動画研修を活用し学び、よりよい看取り介護に向けて理解を深めた。

・生活相談室：入居者及び家族の意向を尊重し、各部署と連携しながら、きめ細やかなサービス提供を実施する。また、空床期間を減らすことで稼働率の向上を図る。

面会制限をする中においてオンライン面会を早くに取り入れ、また、手紙や写真等で家族に近況報告等を細目に行い入居者及び家族の意向を尊重したサービス提供を実施した。稼働率は退所者や入院者の減少があり約0.5%向上した。

- ・給食室：安全で家庭的な美味しい食事の提供で、利用者の生きる力・笑顔溢れる生活を支えるため、調理、栄養の研修、実習で個々の職員のスキルをアップする。

部署勉強会にて調理実習等行い、職員のスキルアップを図った。また、家庭的で美味しい食事の提供に心掛け、四季折々の食材を使用し、手間を惜しまない手順を徹底した。

- ・事務室：財務及び労務のスキルアップを図り、伊豆地区の事務統合に取り組む。

日常業務や勉強会で知識を深め新たな業務を担当するなど、職員個人のスキルアップに繋げた。伊豆地区の事務統合については、施設や地域のニーズ等に適時対応するため拠点ごとに事務職務を遂行する体制を築き、拠点間の連携を強化し適正化や資質の向上を図ることとした。

2. 地域包括支援センター

- ・地域包括ケアシステムの構築に向け、住民や関係機関、多職種との連携を強化しつつ、安心して暮らせる共生社会を目指し、支え合いの仕組みを作る。

地域の支え合いの仕組みづくりを目指し、認知症サポーター養成講座を開催、地域課題である交通の問題等について包括ケア会議で検討を行った。また、生活支援コーディネーターと連携し、新しい居場所づくり等に取り組んだ。

3. 居宅介護支援事業所

- ・伊豆高原：信頼を得ることで利用者や関係機関等から安心して任せていただける事業所とするため、専門スキルだけではなく、接遇等も含めた資質の向上を図る。

感染症の影響で多くの勉強会が中止となったが、事業所内での勉強会や会議を通じ感染対策に伴う介護保険の臨時的な制度改正の理解や接遇等を含めた資質向上に取り組んだ。利用者満足度アンケートを実施し、相談時の対応や説明については、98%の方から「満足している」、「わかりやすい」との回答で全体的にも満足できているとの回答をいただいた。

- ・ケアプランセンター—碧：地域との信頼関係を構築するため圏域内の地域包括支援センター（小室）と連携を強化する。

コロナ禍で関係機関との交流機会が減ったが、ケース毎に情報共有を適時行い、利用者の変化を迅速に捉えて自立支援や住み慣れた地域での生活を支援することが出来た。

4. 短期入所生活介護事業

- ・安心安全に利用できるよう取り組むと共に、緊急受入や特養の空床利用をスムーズに行うことで利用率を向上する。

ヒヤリハットの事例を1人2件以上出す取り組みを行うことで事故を未然に防ぐ意識が高まった。また、緊急受入の依頼に柔軟に対応するとともに、コロナ禍の影響による長期利用にも対応し、結果利用率の向上につながった。

5. 通所介護事業所

- ・利用者に選ばれる事業所になるため、研修会への参加及び勉強会の内容を充実させ、職員個々にスキルアップする。

感染症の拡大により外部研修が中止となり参加できなかったが、職員個々のスキルアップを図るため、事業所内での勉強会を充実させ、また、日誌の活用や職員間の情報共有、意見交換等を密に行った。

6. 介護予防事業

- ・包括支援センターや生活支援コーディネーターと連携し、介護予防教室やサロンの内容を充実させて参加者数の増加を図る。

委託事業の半数が中止となってしまったが、DMや電話等で啓発活動を行った。また、通所介護の業務を担うことでレクや簡単な介助の仕方を改めて職員が学ぶことが出来た。

7. 訪問介護事業

- ・利用者を増加させるため、研修や勉強会を通じて個々のスキルを上げつつ、関係機関、他職種との連携を今以上に密にする。

感染症の影響により研修や勉強会への参加が思うようにできなかったが、資料の配布などで職員のスキルアップに繋げ、利用者の変化については速やかに関係機関への連絡をするなどして連携を密にした。利用状況は毎月新規契約はあったが入所や入院で利用休止になる利用者がそれ以上に多く増加には至らなかった。

8. 配食サービス事業

- ・栄養ある弁当配達で食の確保・フレイル予防をしつつ、安否確認により安心して在宅生活が継続できるよう支える。

バランスのとれた栄養ある弁当配達を行い、在宅高齢者のフレイル予防・在宅生活継続の支えとなることが出来た。

9. 生活支援事業

- ・地域住民や様々な関係機関と連携し、支え合いや助け合いの推進を図り、高齢者が安心して暮らしていけるよう、地域全体で支える仕組みを作る。

地域住民や様々な関係機関と連携し、住民主体の通いの場を圏域内に4ヶ所増やすことが出来た。また、多くのWeb研修参加をすることで自身のスキルアップを図った。

B. 利用実績

	介護老人福祉	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅（伊豆）	居宅（一碧）
利用定員	90 人	10 人	27 人			
利用者延数	32,556 人	3,265 人	6,579 人	13,970 時間	1,370 件	1,712 件
一日平均利用者数	89.1 人	8.9 人	22.3 人	38.2 時間	114.1 件	142.6 件
稼働率、稼働指数	99.1%	89.4%	78.6%			
稼働日数	365 日	365 日	310 日	365 日	12 ヶ月	12 ヶ月
単価（一人一日当たり）	14,093 円	13,815 円	9,044 円	3,727 円	13,356 円	14,068 円
収入（千円） ※	458,843	45,109	59,503	52,071	18,298	24,086
職員数（常勤換算）	62.9 人	6.4 人	9.2 人	9.9 人	3.0 人	4.0 人
	地域包括	介護タクシー	介護予防	生活支援	配食	事業活動収入 職員数合計
利用定員						
利用者延数	15,028 件	12 件				
一日平均利用者数	58.8 件	0.1 件				
稼働率、稼働指数						
稼働日数	245 日	254 日				
単価（一人一日当たり）	2,413 円	1,000 円				
収入（千円） ※	36,276	12	3,360	5,864	2,128	705,550
職員数（常勤換算）	6.8 人	0.1 人	1.9 人	1.3 人	0.6 人	106.1 人

※ 収入は介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位：千円、未満切り捨て)

	収 入		支 出		収支差額	
	当初予算	実 績	当初予算	実 績	当初予算	実 績
事業活動による収支	726,246	708,368	645,000	614,501	81,462	93,867
施設整備による収支	0	0	66,690	70,577	△66,690	△70,577
その他活動による収支	1,000	763	14,391	14,396	△13,391	△13,632
当期資金収支	-	-	-	-	1,165	9,657

☆事業活動収支について

事業活動による収支において、収入実績が当初予算を下回ったことは短期入所、通所介護、訪問介護の利用者数減少、包括支援の委託料減額、介護予防事業の新型コロナウイルスの感染症対策による事業中止等が影響した。また、支出が減少した主な要因は、当初見込んでいた介護職員の採用が進まなかったことや人員配置を見直したことによる人件費が減額となったこと、新型コロナウイルス感染症対策として、職員の移動等が制限されたことによる事業費及び事務費の費用が減額となったことである。

2. 事業活動計算書の状況

(単位：千円、未満切り捨て)

	2020 年	2019 年	2018 年	2017 年	2016 年
サービス活動収益計	706,202	701,079	690,491	685,663	674,518
サービス活動費用計	660,005	665,317	661,063	671,267	664,116
サービス活動増減差額	46,197	35,761	29,428	14,396	10,403
経常増減差額	42,724	31,645	5,582	4,287	△719
特別増減差額	0	0	15,503	△3,253	△9,246
当期活動増減差額	42,724	31,645	21,086	1,034	△9,965

☆サービス活動収支について

サービス活動による収支において、収益が前年度より増額となったことは、特養の稼働率が前年度より改善されたこと、居宅介護支援事業所の契約件数が増加したことによるものである。当期活動増減差額において前年度との差額は、収益の増加と人件費の抑制や新型コロナウイルス感染症対策として、職員の移動等が制限されたことによる事業費及び事務費の費用が減額となったことによるものである。

3. 設備投資及び積立の状況

- ・設備投資：離床センサー内蔵超低床ベッド（10 台）3,525 千円、電解水生成装置 467 千円、介護等記録支援ソフト・iPad（13 台）1,956 千円
栄養管理システム・PC 396 千円 空気消臭除菌装置（3 台）676 千円
- ・積立：該当なし

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ・設備資金借入金元金償還：64,128,000 円、利子：3,856,156 円、借入金年度末残高：628,132,000 円

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 誤嚥事故への継続対応及び再発防止策の浸透を図る。
2. 人材育成体系を構築する。
3. 働きやすい職場環境を整え、離職防止と人材採用に努める。
4. 運営、経営の合理化、簡略化に取り組む。
5. 伊東市南部の「対島地域ふるさと協議会」や地域住民とともに、地域共生社会を推進していく。
6. 旧施設PCBの処分

IV. 利用者の状況(2020年度)

施設名 伊豆高原十字の園

1.施設利用の状況

区 分		2020年度	2019年度
入居者数	男	17人	15人
	女	71人	75人
	計	88人	90人
利用日数	男	5,864日	5,737日
	女	26,692日	26,658日
	計	32,556日	32,395日
平均入居期間	男	2.07年	2.06年
	女	4.00年	3.09年
	計	3.07年	3.06年
最長入居期間	男	7.03年	6.03年
	女	11.10年	10.10年

区 分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	84.3歳	83.5歳
	女	89.8歳	89.6歳
	計	88.8歳	88.5歳
最高年齢	男	97.0歳	96.0歳
	女	108.0歳	107.0歳
最低年齢	男	71.0歳	70.0歳
	女	67.0歳	66.0歳
出身地域	圏内	82人	84人
	圏外	3人	3人
	県外	3人	3人
平均介護度		4.0	4.0

区 分		2020年度	2019年度
新入居者数	男	4人	6人
	女	10人	20人
	計	14人	26人
退居者数	男	2人	7人
	女	14人	19人
	計	16人	26人
入院者数	男	1人	5人
	女	5人	5人
	計	6人	10人
入院日数	男	37日	162日
	女	93日	61日
	計	130日	223日

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	2人	2人
要介護度2	5人	4人
要介護度3	21人	22人
要介護度4	23人	22人
要介護度5	37人	40人

入居前住居

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	7人	6人
病 院	0人	1人
老 健 施 設	5人	11人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	5人
他 施 設	2人	3人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	16人	24人
帰 宅	0人	1人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年度	2019年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	234	262	284	277	284	275	281	269	312	224	307	256	3,265人	3,455人
	平均人数	7.8	8.5	9.5	8.9	9.2	9.2	9.1	9.0	10.1	7.2	11.0	8.3	8.9人	9.4人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	600	542	568	550	535	601	579	535	557	475	497	540	6,579人	6,926人
	月平均人数	23.1	20.8	21.8	20.4	20.6	23.1	22.3	20.6	21.4	19.8	20.7	20.0	21.2人	22.3人
	開所日数	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	24	27	310日	311日
訪問介護事業	訪問回数	1260	1319	1292	1323	1264	1293	1305	1234	1289	1171	1104	1227	15,081回	16,335回
	訪問延時間	1229	1162	1182	1207	1145	1222	1196	1150	1208	1068	1028	1173	13,970時	14,683時
包括支援センター	相談件数	1202	1014	1284	1236	1248	1153	1127	1363	1457	1282	1178	1484	15,028件	33,923件
	予防計画件数	160	156	158	168	168	163	159	163	160	158	160	158	1,931件	1,933件
居宅介護支援事業	作成件数	248	238	261	261	266	272	274	266	265	259	260	212	3,082件	2,972件
身障訪問介護事業	訪問回数	16	15	15	16	15	16	15	13	15	14	26	28	204回	12回
配食サービス	食 数	275	229	257	284	248	261	256	246	232	189	198	231	2,906食	3,643食

V. 職員の状況

職 種		配置		男		女		就職		退職		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施 設 長		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員		3	2	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0
相 談 員		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	-1	0
直接 処遇 職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	40	5	18	1	22	4	5	1	6	1	-1	0
	看護職員	3	3	0	0	3	3	1	0	1	1	0	-1
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		5	4	3	2	2	2	2	0	1	1	1	-1
医 師		0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	8	0	5	0	3	0	1	0	1	0	0
小 計		56	24	25	11	31	13	8	2	9	4	-1	-2
在宅 事業	通所事業等	6	5	1	1	5	4	2	0	1	0	1	0
	訪問介護	4	18	0	0	4	18	0	1	0	3	0	-2
	居宅支援	6	0	2	0	4	0	1	0	2	0	-1	0
	地域包括	6	1	1	0	5	1	0	0	0	0	0	0
	介護予防	1	4	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0
	地域支援	1	3	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	小 計	24	31	5	1	19	30	3	1	3	3	0	-2
合 計		80	55	30	12	50	43	11	3	12	7	-1	-4

* 現員は2021年3月31日現在 就退職は2020年度内増減

VI. 寄付金収入

区 分	件数	寄付金額
入 居 者	0件	0円
入 居 者 家 族	2件	40,000円
遺 贈 者 家 族	1件	30,000円
在 宅	3件	82,955円
一 般	19件	114,006円
業 者	0件	0円
職 員	0件	0円
役 員	0件	0円
合 計	25件	266,961円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄 付 物 品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）アドナイ館 2020年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

4月に施設長の交代があり、相談員はじめ他職員の異動により新たな組織体制で臨むこととなった。これまで同様に毎月一回勉強会に合わせて職員礼拝を計画していたが、コロナ禍で集合研修を見合わせたこともあり計画通り実施できなかった。ケアハウス職員に対しては、今まで以上に毎朝の礼拝への参加を求め、礼拝準備や奉仕者との関わりを担うことを通じ礼拝への意識を高めることができた。

B. 運営方針について

1. 地区として一体化を進め、理念・行動規範に沿った信頼し合えるチーム作りをする。
 - ・前年度より継続し、浜松地区3施設合同の委員会活動に取り組み一体感を図った。
 - ・3施設相談員会議が定着し、入居者の情報共有を図り、ニーズに応じた施設移動に取り組むことができた。
2. 老朽化した建物の建て替えに向けた準備を一体的に進める。
 - ・特養の建て替え計画を検討する中で、地区一体化をコンセプトに掲げて話し合いを重ねてきたが、具体的な計画策定には至らなかった。

II. 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業の目標達成状況

1. ケアハウス部門

情報共有と役割の明確化

- ・毎月ハウス会議、毎日の申し送りを徹底して開催し、情報の共有化を図ることができた。
- ・事務所職員の役割を表に表し共通認識を得た。
- ・厨房職員との意識統一に向けて、具体的に取り組めていない。

利用者が安心して生活するためにより利用者の声を聞く取り組み

- ・毎月「よろず相談日」を設け施設長と入居者の対話の機会を造れた。
- ・施設懇談会を開催し、施設と入居者との意見交換の場を定例化した。

計画的な施設整備

- ・受水槽の更新ができた。
- ・ボイラー更新について、次年度給湯器に変更するプランにて予算化することができた。
- ・備品管理ルール（在庫管理）を作成し、実施している。
- ・カーテンクリーニング、カーペットクリーニングの実施。

2. デイサービス部門

個別活動を充実させ、やりがい、達成感を感じて楽しく通い続けられる取り組み

- ・興味関心シートにて利用者に、デイサービスで余暇時間に行いたいこと、機能訓練で参加したい体操、自宅で困っていることについて聞き取りを行い、それらを参考にし、デイサービスでの過ごし方を自身で決めていただくことができた。利用者自身で余暇時間の制作物を取りに行くことができる環境整備が進んでいないため、今後実施していきたい。

家族や地域と関わる機会を作り、デイの良さを発信する

- ・地域に出向いて発信する機会が取れなかったために、デイ便りに自宅でも行える機能訓練、口腔ケア、口腔体操を掲載し、ご家族に配布した。またアドナイ刊にも同様に記事を掲載し、デイサービスでの取り組みについて発信する機会を作った。

B. 利用実績

(職員数は2020年度末月現在の数とする)

	ケアハウス	通所介護	事業活動収入
利用定員	50人	30人	
利用者延数	18,250人	7,153人	
1日平均利用者数	50人	23人	
稼働率、稼働指数	100%	77.0%	
稼働日数	365日	310日	
単価(一人一日当たり)	5,208円	9,187円	
老人福祉・介護保険事業収入	95,052千円	65,717千円	160,447千円
職員数(常勤換算)	9.7人	11.4人	21.1人

C. 資金収支、財務状況、

1. 資金収支予算達成状況

(単位；千円、未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	165,852	167,167	149,960	155,361	15,892	11,805
施設整備による収支	0	0	11,800	14,459	△11,800	△14,459
その他活動収支	7,630	8,441	11,690	5,769	△4,060	2,671
当期資金収支					32	17

(当初予算との増減差額が大きい要因)

・事業活動による収支

収入1,316千円減：入居一時金等により2,377千円増。通所介護が目標未達5,118千円減。

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金2,949千円増。

経常経費寄附金収入1,077千円増。

支出5,402千円：退居者への管理費返還4,362千円増。

・施設整備による収支

支出2,659千円増：固定資産取得内容見直したため。

・その他活動による収支

支出5,920千円減：入居一時金を長期預り金に積立2,400千円増。

拠点区分間繰入金支出8,300千円減。

2. 事業活動計算書の状況

(単位；千円、未満切り捨て)

	2020 年	2019 年	2018 年	2017 年	2016 年
サービス活動収益計	162,524	162,785	160,181	163,923	157,821
サービス活動費用計	153,451	153,165	150,688	51,731	154,890
サービス活動増減差額	9,073	9,620	9,493	12,192	2,931
経常増減差額	9,823	11,160	10,918	12,856	3,594
特別増減差額	△3,080	△5,180	△2,517	△3,069	△2,730
当期活動増減差額	6,743	5,980	8,401	9,787	864

(2019 年との差額が大きい要因)

- ・ サービス活動収益は、介護職員等特定処遇改善加算や新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金などにより収入増となっているが、通所事業の利用実績が目標値に達しなかったため 259 千円減となった。
- ・ サービス活動費用は、介護職員等特定処遇改善手当金などの支給や新型コロナウイルス感染症対策のための費用が増加したが、修繕費等が前年度に比べ減少したため、287 千円増となった。
- ・ 特別増減差額は、本部拠点への繰入額が 2,100 千円減となったため。

3. 設備投資及び積立資産の状況

- ・ 設備投資：受水槽 6,490 千円、車両更新 1,049 千円、ヒムプレイヤー151 千円。
- ・ 積立金：長期預り金取崩 6,441 千円（退居者精算等）、修繕費取崩 2,000 千円。
長期預り金積立 2,400 千円。

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ・ 元金償還：6,000 千円、利息支出 108 千円、年度末残高 12,000 千円。

Ⅲ. 対処すべき課題

- ・ 給食業務の地区一体化
- ・ 設備整備：給湯器更新 エレベーター更新

Ⅳ. 利用者の状況(2020年度)

施設名 アドナイ館

1.施設利用の状況

区 分		2020年度	2019年度
入居者数	男	16人	16人
	女	34人	34人
	計	50人	50人
利用日数	男	5,687日	5,856日
	女	12,563日	12,444日
	計	18,250日	18,300日
平均入居期間	男	6.8年	6.7年
	女	8.0年	9.0年
	計	7.4年	7.9年
最長入居期間	男	28年	27年
	女	28年	27年

区 分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	83.3歳	80.8歳
	女	83.6歳	83.0歳
	計	83.5歳	81.9歳
最高年齢	男	92歳	94歳
	女	98歳	97歳
最低年齢	男	74歳	48歳
	女	59歳	58歳
出身地域	圏内	36人	36人
	圏外	7人	8人
	県外	7人	6人
平均介護度		1.2	1.4

区 分		2020年度	2019年度
新入居者数	男	3人	2人
	女	7人	3人
	計	10人	5人
退居者数	男	3人	1人
	女	7人	6人
	計	10人	7人
入院者数	男	2人	3人
	女	11人	5人
	計	13人	8人
入院日数	男	51日	194日
	女	208日	187日
	計	259日	381日

アドナイ館

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	28人	26人
要 支 援	10人	13人
要介護度1	9人	7人
要介護度2	2人	3人
要介護度3	1人	1人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人

入居前住居

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	10人	1人
病 院	0人	1人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	3人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	3人	0人
帰 宅	1人	0人
病院へ転出	2人	0人
他施設へ転出	2人	7人
そ の 他	2人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年度	2019年度
通所介護事業 (一 般 型)	利用延人数	573	547	560	571	577	566	638	636	672	594	565	654	7,153人	7,239人
	月平均人数	22.0	21.0	21.5	21.1	22.2	21.8	23.6	25.4	25.8	24.8	23.5	24.2	23.1人	23.4人
	開 所 日 数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	310日	310日

Ⅴ. 職員の状況

職 種		配置		男		女		就職		退職		比較増減	
		常	非	常	非	常	非	常	非	常	非	常	非
		勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤
施 設 長		1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
事 務 員		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
相 談 員		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接処 遇 職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	1	2	1	0	0	2	0	0	0	1	-1	-1
	看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		4	1	0	0	4	1	0	0	0	1	-1	-1
医 師		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0
小 計		9	7	2	3	7	4	1	0	0	2	-1	-2
在宅 事業	通所事業等	9	10	3	3	6	7	0	0	0	0	0	0
	訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	居宅支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	9	10	3	3	6	7	0	0	0	0	0	0
合 計		18	17	5	6	13	11	1	0	0	2	-1	-2

* 現員は2021年3月31日

就退職は2020年度内増減

Ⅵ. 寄付金収入

区 分	件数	寄付金額
入 居 者	21件	478,000円
入 居 者 家 族	0件	0円
遺 族	2件	1,274,210円
在 宅	0件	0円
一 般	33件	319,675円
業 者	0件	0円
職 員	0件	0円
役 員	1件	5,000円
合 計	57件	2,076,885円

その他寄付金収入

寄 付 等 雑 収 入	0件	0円
寄 付 物 品	0件	0円

松崎十字の園・オリブ 2020 年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

松崎教会牧師、下田教会伝道師の協力で、聖書（ローズンゲン）を通した神様の御言葉や利用者、職員の健康、励まし、施設の平安等をお祈りいただいたこと、施設長として、職員への励ましの言葉や問いかけでキリスト教福祉、理念の実践を促し、礼拝を守ることができた。また、松崎教会牧師においては礼拝後に入居者と関わりの時間をもつていただき、精神的に支えられた。

ハンドブックを利用し、職員一人ひとりが理念を実現できるよう各部署での申し送り時に行動規範の読み合わせを行った。また、法人理念の「夕暮れになっても光がある」・「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」を職員が暗唱できるようになった。

B. 運営方針について

1. 人材育成に取り組む。（私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。）

「職員のコミュニケーション能力（特に接遇）を高める。」を全体の目標とし、各職場で研修計画を立て実行した。毎月の主任会議では互いの職場の進捗を確認し合い、相互にスキルアップできるよう努めた。職員に取り組み後のアンケートを行い集計したところ、個人でもチームでも微増だが向上したという結果となった。個別の意見としては対職員でも対利用者でも言葉の乱れが気になるとの声が多かった。

2. 働く環境を整備します。（私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。）

設備の不良箇所の修繕を行うため、法人本部から 1,000 万円の借入を予算化し進めたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、在宅サービス（通所、訪問）の利用が減ったことが大きな要因となって収入が落ち込み、第 2 次補正予算の段階で、このまま借入を行っても赤字になると見込まれた。これにより修繕計画の見直しが必要となり、法人本部と相談した結果、借入は行わず、ライフライン等緊急的なものの修繕を行い、エレベーター改修、加圧給水ユニットポンプの交換等は優先順位をつけて次年度以降に繰り越すこととした。コロナ禍による感染症緊急包括支援交付金を利用し、感染予防対策の整備ができた他、複数の助成金を受け、プレハブ冷凍冷蔵庫（中央競馬馬主社会福祉財団助成金）や電熱式ミックサーカー（小塩報恩会助成金）、ラベルプリンター（三信福祉協会社会福祉活動助成金）が新しい物と交換できた。利用者の日常生活や就労作業に必要なもの、そして職員が安心安全に働く環境が整えられ感謝である。また、5S 委員会を中心に環境整備を行った他、業務改善については運営会議、主任会議等を通じ、各部署の仕事を縦割りではなく、柔軟に協力、配置の転換をし、草刈り等外部へ委託できるものは目的や費用対効果を勘案して行った。しかし、職員の高齢化、夜勤者不足等を補う持続的な改善はできていない。人材確保の方法についても協議し、ハローワークだけではなく、人材紹介業者や職員からの紹介、学校訪問等尽力し、地元高校新卒の男性 2 名が介護職員として採用につながったが、看護職員をはじめ継続した事業運営のための有資格者の補充については課題である。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設 松崎十字の園

（1）介護

① 利用者の笑顔がある生活の場、職員の笑顔がある職場にします。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、面会や外出の制限があり、施設内でのイベント（誕生会、運動会、ぶどう狩り、昼食作り、おやつ作り等）計画を例年より充実させ実行し、利用者と職員が一緒になって楽しめたことで笑顔がある職場となった。

② 礼儀正しい言葉使いをすると共に、丁寧な介護を行います。

丁寧な介護を実践するため、「接遇」について動画研修及び職員アンケートを実施。また、ユニット会議等での苦情事例の報告を行い、職員の接遇に関する意識を向上させた。

③ 職員が講師になる研修会を企画します。

動画視聴での研修が主になったが、介護室全体では1回、職員が講師になり勉強会を実施。ユニット会議ではユニット職員が講師として認知症の勉強会を7回開催した。

④ 利用者・家族にアンケートを取り介護の質を高めます。

介護の質を高めるために家族アンケートの作成は行ったが、コロナ禍にてその内容と施設の状況がかけ離れていってしまったため取りやめた。代案として利用者の日々の生活がわかるよう毎月ユニットから各利用者家族へ生活状況についてのお手紙を送り、感謝の言葉をいただいた。

(2) 看護

① 感染症対策では、職員の勉強会、日々の清潔保持、健康管理を常に意識して感染0にします。

新生活様式の実施（感染防止対策の徹底、面会や外出、交流や感染拡大地域への不要不急の外出しない）が主な要因だと考えられ、感染症は0であった。

② 看取り介護では、家族・職員にグリーフケアについての知識や技術・方法の学び、多職種連携を取りながら行います。

コロナ禍により、看取り介護は家族と寄り添う事が難しく、また、看護職員の入院等による体制の不備もあり、多職種連携してのグリーフケアの学びは行うことが出来なかった。

(3) 相談員

① 可能な限り利用者自身が意思決定できる支援を行えるように相談員の質を上げ、環境を整えます。

相談員の質を向上させるため、意思決定支援の勉強会等に参加し、ユニット職員と共に利用者本人の日常の意思決定を聞き取ったが、終末に向かった人生について等の聞き取りはできなかった。

② 入所待機者・家族に対して事前に連絡調整を図り、施設での生活に納得されるように説明を行い、入所後の生活について意見やアンケートを取り支援の改善を多職種と図ります。

今年度は6名の入所者を迎えた。それぞれ入所前に打ち合わせを行い、施設の生活の不安について聞き取り、利用者本人も家族も施設生活に慣れて頂くよう働きかけた。しかし、入所後に家族内での意見の違いや施設関係部署との連携に不備があった事案もあり、施設全体で情報を共有し、改善に取り組んだ。家族アンケートを計画していたが、新型コロナウイルスが落ち着き、面会の制限がなくなってから実施する。

(4) 施設介護支援専門員

① 利用者本人が望む活動を本人や家族に具体的に聞き取りPDCAに基づいたプランを作成します。

利用者本人については意思疎通が可能な方に関しては、本人の言葉をプランに記載することができ、家族の要望は面会時（下半期は15分程だが面会ができるようになった）や電話で聞くことができたが、全ての利用者に行うことはできなかった。PDCAによる一連のケアマネジメントは実行できた。

② プランを作成する際、他部署の連携を深め、利用者が充実した生活が送れるように支援します。

他職種を交えたサービス担当者会議を全利用者に年2回、新入所カンファレンス6回、看取りカンファレンスを5回開催した。プランは、本人、家族、他部署の意見も反映させながら作成するよう心掛け、利用者の充実した生活に資するプラン作りを実践した。

2. 短期入所生活介護事業

① さまざまな認知症の症状について研修を行い、正しく理解しその人に合った対応を行います。

前頭側頭型認知症の他、嚥下機能の実習、パルスオキシメーターの仕組み等の勉強会も行うことに加

え、入所送迎時、家族と利用者の健康確認、排便その他の情報収集を行い、介護職員だけではなく、看護職員やケアマネジャー等多職種と連携して対応をした。

② 事故防止についてヒヤリハット等の事例を参考に事故件数の減少に努めます。

新規利用者及びハイリスクの利用者は見守りのしやすい居室に固定し、居室の家具、椅子、ベッドのレイアウト、ベッド柵の使い分け等、利用者個々への対応及び夜間の見守りの強化を図り、昨年より2件事故が減った。

3. 通所介護事業

① 個別の生活リハビリの支援計画を立て、支援の充実と体制強化を図り事業所の強みにします。

個別の生活リハビリ計画をそれぞれの利用者の通所介護支援計画書に盛り込み、計画書に沿って支援した。自宅での課題解決と事故防止に繋がり、当該事業所の特長として今後も継続していく。

② 職員のサービスの質の向上を図るため他事業所と連携した研修を行い、地域全体の事業所の質を高めます。

コロナ禍により他事業所交換研修及び地域全体の質を高める活動が出来なかった。

③ 継続力を持った人材の育成にあたります。

生活リハビリ、レクリエーション、イベント立案・実施等にそれぞれの職員が継続して取り組めるように進めて来たが、退職による人員不足、異動によりサポートが不十分になってしまった事が多々あり、継続する意識を保つ事が出来なかった。

4. 訪問介護事業

① 利用者の思いだけでなく、家庭の介護者の思いも受け留めて対応が継続出来る事業所にします。

利用者、家族の抱える課題を少しでも解決出来るようケアマネジャーと連絡を密に取り合うようになった。また、他事業所（デイサービスや入所施設）と利用者家族の外泊の準備において協力し合い、ヘルパーが関われない部分の支援には地域の方の協力を得て、連携して支援する事が出来た。

② ヘルパー増員の為の働き掛けが出来るようにします。

現在対応している特殊な事例について対応しているヘルパーの退職が近づいており、ヘルパー増員のために少しでも興味を持っていただけるよう法人内外で事例報告を行ったが採用は出来なかった。

5. 居宅介護支援事業

- ・ 職員1名体制で営業していたが7月末に退職。後任を配置できず、やむを得ず7月1日から3月31日まで事業所を休止した。

6. 障害者支援施設 オリーブ

(1) 施設支援

① 良質なコミュニケーションとは何かを考え、職員の質を上げる研修を行います。

コミュニケーションの研修については、事例を中心にどのような方法が個々の障害特性に合っているのかを、職員それぞれの経験を交えて共有し質を向上した。

② 利用者一人ひとりの思いを支援内容の検討を関係職種と行い、個別支援計画書の作成・実施し、決まりきった業務に陥りがちな支援から利用者に合わせた臨機応変な関わりを実行します。

利用者から出るニーズに対し、担当職員が毎月のカンファレンスや会議で個別支援計画の内容を確認してきたが、従来と大差のない個別支援計画になり、臨機応変な関わりはできなかった。

(2) 生活介護

① 新規利用者の把握と利用へ向けたスムーズな対応を相談支援と連携して行います。

新規利用者は0名であったが、相談支援と連絡を取ることで利用者を把握した。生活介護の定員は空きがあるが、遠方利用者が多く送迎の体制が組めないことが課題となっている。

② サービス利用時の個々の利用環境の整備を行うと共に、利用者の入れ替わり、職員の異動に伴う不安

を軽減出来る支援計画の作成と実施を行います。そして、利用者から満足度の評価を受けます。

安心できるサービスを提供するため、在宅利用者の身体状況を考えて生活環境を整え、加えて固定した職員を週ごとに配置した。全利用者への満足度調査はできなかったが、聞き取りのできた利用者からは安心して生活できたと良い評価を受けた。

(3) 看護

- ① 障がいの理解、疾病の理解について多職種と共に学び利用者の一人ひとりの日常生活が充実できるようにします。

難病や疾患等について、朝、夕の申し送りやリハビリカンファレンス、個別カンファレンスを利用して多職種と連携して学ぶことができ、病気の特性を理解し、利用者の個性を尊重した支援を行った。

- ② オリブの利用者は、就労支援の事業所に行くケースもあり、それぞれの健康管理を図り、関連事業所や施設の他部署と連携して感染0にします。

関連事業所等と連携して新生活様式の実施（感染防止対策、面会や外出、交流や感染拡大地域への不要不急の外出しない）を徹底したことにより感染症は0であった。

(4) 機能訓練

- ① 障害に応じた機能訓練を支援員・看護師と共に立案し、多職種と連携し個別の訓練支援を実施します。

多職種でカンファレンスを行い、検討内容を機能訓練プログラムに反映し立案・実行した。また、補装具に関しても関連職種より必要な機能を聴取しながら対応した。

7. 身障短期入所事業

- ① 相談支援と連携を図り、在宅生活継続の為の支援を行います。

相談支援と連携を密に取り、在宅生活継続のために利用頻度や利用環境について連絡調整を行った。

- ② 本人や家族の意向を聴き、体調維持管理等の支援を行い、利用の満足度を上げます。

利用時や送迎時に利用者やご家族の話を聞き、状況を確認することで、オリブでの快適な利用につながるよう取り組んだ。また、個別での聞き取りをして要望に対応し良い評価をいただいた。

8. 障害者相談支援

- ① 2021年地域生活支援拠点事業の本格的運営開始に向け、賀茂地区自立支援協議会との連携をもち、事業を進めます。特に対象者リスト台帳の作成と整備を行います。

地域生活支援拠点事業に関しては2020年4月、1市5町との契約を結び、生活の場（うさぎビル）の改修工事、対象者リスト台帳の作成、相談及び緊急時の対応を整備した。

- ② 特定事業所加算や精神障害者支援体制加算・強度行動障害支援体制加算の要件をみたとすように必要な研修を受講し、算定ができるようにします。

特定事業所加算算定については準備を整えたが、基幹相談支援センターが設置されていない圏域のため、算定可能かどうか行政へ確認中、回答待ちである。

- ③ 平均月1名の新規利用者の受け入れを行っていきます。

新規利用者月平均1名以上を受け入れた。

9. 障害者ヘルパー事業

- ① 特殊なケース（化学物質過敏症等）に対しての対応が継続して出来る事業所にします。

特殊な事例（化学物質過敏症等）について、ヘルパーの人員が不足しているが、現職の中で対応できる者を増やし、利用日や支援内容の変更要望にも応じて継続した対応が出来た。

- ② ヘルパー増員の為の働き掛けが出来るようにします。

現在対応している特殊な事例について対応しているヘルパーの退職が近づいており、ヘルパー増員の為に少しでも興味を持っていただけるよう法人内外で事例報告を行ったが採用は出来なかった。

10. 就労継続支援B型事業所（ワークショップマナ）

① 利用者の増加に対応した体制作りを行います。

年度当初から主任職空席のままの体制で引継ぎを行ってきた。職員は自分に出来る事を一つでも増やそうと話し合い実践できたが、年度途中で男性職員1名が異動。男性利用者25名に対し男性職員1名での対応はできていない。

② 職員交代に伴い、新職員に対して、教育研修を行うと共に今までに支援のあり方を見直します。

新型コロナウイルスの流行により作業所連合会の研修や賀茂地区作業所で行うイベント等が中止され、他の作業所の方と話す事や製品を見て勉強する機会も少なかったため、皆の前で自分の意見を遠慮せず話せる事を重点に置き、動画研修で接遇や聴くスキル、チームケアなどについて勉強し自分の言葉で話す機会を多くし支援への自信をもつことでチームワークを強化した。

③ 事務と共に就労会計の適正な処理と材料と製品、設備機材、道具の6Sを行います。

主任不在の中、事務と協力し就労支援の会計管理を行ったが、未熟なため引き続き事務と協力していく。また、6Sについては利用者と共に協力して実行した。

11. 給食（障害施設と共通）

① 給食からの発信で利用者へ食を通しての楽しみの提供を年4回行います。

給食から発信した行事計画は8回。その他クリスマス等全体行事での行事食が4回。また、イースター（卵料理）や開所記念日（赤飯）、お彼岸（おはぎ）など記念日や季節が感じられるような食事を提供できた。おやつバイキングのレイアウト等各工夫を凝らして利用者と共に職員も楽しめた。

② HACCP導入に向けて、給食職員に理解と周知に努めます。

新型コロナウイルスの影響で保健所の講習会日程が年度末に変更になったこと、衛生監査がなかったことで、HACCP導入後の詳しい取り組みについて確認が取れず、勉強会が出来なかった。

③ 給食室のチーム力のアップを行います。

会議の時間を増やして皆で話し合うことを重点的に取り組んだ。今まで意見を表出できなかった人が発言する機会が増え、結果チーム力がアップした。

12. 事務

① 伊豆地区の会計の統合化と松崎・オリブ拠点の役割の明確化を会計責任者と予算管理責任者の指示のもとに行います。

伊豆地区の会計統合化は、数年前から取り組んでいるが、年度当初の東部地区経営管理会議において必要性、有効性等を改めて検証したところ、拠点ごとに管理していくことが現実的かつ合理的との理由で廃止となった。また、マナの会計に担当者を決めるなど役割の明確化に取り組んだが、事務員の退職、異動も重なり、全体の明確化には至らなかった。

② 就労支援事務管理の徹底を図り、これらをマナの主任業務に結び付ける基礎を作ります。

就労支援の事務管理では、年度当初にマナ主任が退職。その後主任不在のままだが4月に配属した者に会計の基礎を指導した。2021年度に主任を配置して、事務管理を徹底する。

B. 利用実績

① 松崎十字の園拠点利用実績

	特養	短期	通所	訪問	居宅	事業活動収入計
利用定員	50人	9人	25人			
利用者延べ数	18,170人	3,484人	3,634人	1,130時間	68件	
一日平均利用者数	49.8人	9.5人	14.1人	3.1時間		
稼働率・稼働指数	99.6%	106.1%	56.6%			
稼働日数	365	365	257			
単価(一人一日当たり)	11,982円	11,344円	9,196円	5,644円/時	10,426円/件	
介護保険事業収入(千円)	217,721	39,520	33,418	6,379	709	306,536
職員数(常勤換算)	42.5人		5.6人	2.6人	1.3人 (出向者1名含)	52.0人

② オリブ拠点利用実績(就労支援事業を含む)

	施設入所	生活介護	短期	訪問	相談	就労支援	事業活動収入計
利用定員	22人	27人	2人			20人	
利用者延べ数	7,966人	5,824人	715人	1,035時間	3,815件	6,554人	
一日平均利用者数	21.8人	22.7人	2.0人	2.8時間		25.5人	
稼働率・稼働指数	99.2%	84.0%	97.9%			127.5%	
稼働日数	365日	258日	365日	365日		257日	
単価(一人一日当たり)	6,180円	11,443円	10,366円	3,534円	4,755円	9,977円	
障害福祉サービス等 事業収入(千円)	49,225	68,647	7,411	3,657	18,144	65,384	215,475
職員数(常勤換算)	16.9人			(兼務2.6人)	2.5人	7.8人	27.2人

C. 資金収支・財務状況

1. 資金収支予算達成状況

① 松崎拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	収 入		支 出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	317,261	306,536	323,325	302,936	△6,064	3,599
施設整備による収支	5,250	5,250	26,370	26,910	△21,120	△21,660
その他活動による収支	34,020	18,757	6,529	690	27,491	18,067
当期資金収支					307	6

- ・収入について：新型コロナウイルス感染症の影響で、通所介護と訪問介護での稼働率が下がったこと、居宅介護支援事業所の一時休止により昨年度と比べ収入減であった。
- ・支出について：感染予防対策用物品の購入により支出増。

② オリブ拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	収 入		支 出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	217,160	215,475	183,248	175,877	33,912	39,598
施設整備による収支	1,750	1,750	7,265	10,798	△5,515	△9,048
その他活動による収支	373	290	28,535	27,298	△28,162	△27,008
当期資金収支					235	3,540

・収入について：在宅サービス短期入所以外の稼働率は増収であった。施設入所では入院者もあったが、新型コロナウイルス感染症の影響で外泊日数が減ったことにより実績増となった。

・支出について：松崎拠点同様、感染予防対策用物品の購入により支出増。

③ 2拠点合計

(単位：千円。未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	534,421	522,012	506,573	478,814	27,848	43,198
施設整備による収支	7,000	7,000	33,635	37,710	△26,635	△30,709
その他活動による収支	34,393	19,047	35,064	27,989	△671	△8,941
当期資金収支					542	3,546

2. 事業活動計算書の状況

① 松崎拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
サービス活動収益計	298,040	306,837	302,839	306,945	304,355
サービス活動費用計	316,559	317,412	308,132	303,776	293,039
サービス活動増減差額	△18,519	△10,574	△5,292	3,169	11,316
経常増減差額	△13,532	△8,462	△4,065	4,691	10,876
特別増減差額	17,252	15,327	13,285	4,612	△3,608
当期活動増減差額	3,719	6,864	9,220	9,303	7,268

② オリブ拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
サービス活動収益計	214,016	203,915	193,134	188,559	178,546
サービス活動費用計	177,845	181,066	172,087	169,085	171,872
サービス活動増減差額	36,170	22,849	21,046	19,474	6,674
経常増減差額	37,536	24,151	22,290	20,933	7,401
特別増減差額	△29,310	△22,925	△21,414	△12,992	△3,902
当期活動増減差額	8,226	1,225	876	7,941	3,499

③ 2 拠点合計

(単位：千円。未満切り捨て)

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
サービス活動収益計	512,056	510,652	495,973	495,504	482,901
サービス活動費用計	494,404	498,478	480,219	472,861	464,911
サービス活動増減差額	17,651	12,275	15,754	22,643	17,990
経常増減差額	24,004	15,689	18,225	25,624	18,277
特別増減差額	△12,058	△7,598	△8,129	△8,380	△7,510
当期活動増減差額	11,945	8,089	10,096	17,244	10,767

3. 設備投資及び積立の状況

① 松崎拠点

- ・ 固定備品：衣類乾燥機116,600円、タント1,518,860円（感染症緊急包括支援事業）、
回転式乾燥機1,470,700円（感染症緊急包括支援事業）
- ・ 修繕・改修：建築設備修繕蓄電池交換297,000円、非常照明器具交換702,900円、
発電機用蓄電池交換541,200円、高圧気中開閉器更新工事568,700円、
Wi-Fi環境構築工事533,500円（感染症緊急包括支援事業）
- ・ ソフトウェア：献立ソフト231,000円

② オリブ拠点

- ・ 固定備品：ガス衣類乾燥機142,725円、業務用給湯器772,200円（感染症緊急包括支援交付金）、
電熱式ミックペーカー1,097,800円（小塩報恩会助成金）
- ・ 修繕、改修：非常照明器具交換488,400円、建築設備修繕蓄電池交換473,000円、
地域生活支援拠点等事業家屋改修2,457,150円（委託費）、
プレハブ冷蔵庫入替2,839,100円（中央競馬馬主社会福祉財団助成金）、
Wi-Fi環境構築工事533,500円（感染症緊急包括支援交付金）、
汚物除去機968,000円（感染症緊急包括支援交付金）、自動ドア修繕321,200円、

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ① 松崎拠点：医療福祉機構：元金償還 11,250,000円 利子 382,500円 年度末残高 11,250,000円
- ② オリブ拠点：医療福祉機構：元金償還 2,750,000円 利子 93,500円 年度末残高 2,750,000円
- ③ 合計：医療福祉機構：元金償還 14,000,000円 利子 476,000円 年度末残高 14,000,000円

Ⅲ. 対処すべき課題

- 人材確保；夜勤者不足や有資格者（相談職・看護職員・介護職員等）の高齢化、退職に伴う事業継続経営；① 新型コロナウイルス感染症予防による、外出制限や面会制限に伴う職員や利用者の心身のケア。
- ② 地域環境変化にあった事業運営と戦略の持ち方。（高齢者福祉中心から障がい者福祉との統合）
 - ③ 行動規範に則った職員の育成。
 - ④ 利用者が居心地良く、職員が働きやすい環境を整える。

Ⅳ. 利用者の状況(2020年度)

施設名 松崎十字の園

1.施設利用の状況

区 分		2020年度	2019年度
入居者数	男	8人	9人
	女	42人	41人
	計	50人	50人
利用日数	男	3,106日	3,290日
	女	15,064日	14,990日
	計	18,170日	18,280日
平均入居期間	男	2.08年	2.02年
	女	4.00年	3.04年
	計	3.09年	3.02年
最長入居期間	男	4.05年	3.05年
	女	12.11年	11.11年

区 分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	86.0歳	88.6歳
	女	89.0歳	88.4歳
	計	88.8歳	88.4歳
最高年齢	男	94歳	98歳
	女	100歳	99歳
最低年齢	男	74歳	73歳
	女	70歳	71歳
出身地域	圏内	45人	48人
	圏外	3人	0人
	県外	2人	2人
平均介護度		3.8	3.6

区 分		2020年度	2019年度
新入居者数	男	2人	1人
	女	4人	4人
	計	6人	5人
退居者数	男	2人	1人
	女	4人	4人
	計	6人	5人
入院者数	男	1人	2人
	女	4人	8人
	計	5人	10人
入院日数	男	12日	15日
	女	53日	301日
	計	65日	316日

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	0人	0人
要介護度2	2人	1人
要介護度3	19人	25人
要介護度4	15人	17人
要介護度5	14人	7人

入居前住居

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	4人	2人
病 院	1人	2人
老 健 施 設	1人	1人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	0人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	6人	4人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	0人	1人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年度	2019年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	254	295	302	290	291	295	308	293	285	310	274	287	3,484人	3,587人
	平 均 人 数	8.5	9.5	10.1	9.4	9.4	9.8	9.9	9.8	9.2	10.0	9.8	9.3	9.5人	9.8人
	開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	206	295	296	299	282	296	329	285	310	276	344	416	3,634人	4,583人
	月平均人数	9.8	14.0	14.1	13.0	12.8	14.1	15.0	13.6	14.1	13.8	17.2	18.1	14.1人	18.0人
	開 所 日 数	21	21	21	23	22	21	22	21	22	20	20	23	257日	254日
訪問介護事業	訪 問 回 数	95	126	109	98	109	155	151	148	107	111	109	118	1,436回	1,645回
	訪問延時間	84.0	99.0	91.0	90.5	101.0	125.5	120.5	113.5	72.0	75.0	74.0	84.5	1,131時間	1,411.0時間
居宅介護支援事業	作 成 件 数	33	23	12										68件	446件

Ⅴ.職員の状況

職 種		配置		男		女		就職		退職		異動		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施 設 長		(1)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員		(3)	0	(1)	0	(2)	0	0	0	0	1	1	0	1	-1
相 談 員		2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接 処遇 職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	20	7	10	2	10	5	0	3	1	1	1	0	0	2
	看護職員	3	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		2	7	1	1	1	6	0	2	0	2	0	0	0	0
医 師		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	(6)	0	(3)	0	(3)	0	1	0	1	0	0	0	0
小 計		30(4)	16(6)	14(2)	4(3)	16(2)	12(3)	0	6	1	5	2	0	1	1
在宅 事業	通所事業等	3	4	3	0	0	4	0	2	1	1	0	-1	-1	0
	訪問介護	(2)	(2)	0	0	(2)	(2)	0	0	0	1	0	1	0	0
	居宅支援	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	-1	0
	小 計	3(2)	4(2)	3	0	(2)	4(2)	0	2	2	2	0	0	-2	0
合 計		33(6)	20(8)	17(2)	4(3)	16(4)	16(5)	0	8	3	7	2	0	-1	1

* 現員は2021年3月31日現在 ()は兼務 就退職は2020年度内増減 1名松崎町へ出向

Ⅵ.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入 居 者	0件	0円
入居者家族	2件	150,000円
遺 族	0件	0円
在 宅	0件	0円
一 般	3件	140,000円
業 者	0件	0円
職 員	0件	0円
役 員	0件	0円
合 計	5件	290,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄 付 物 品	0件	0円

Ⅳ. 利用者の状況(2020年度)

施設名 オリブ

1.施設利用の状況

区 分		2020年度	2019年度
入居者数	男	13人	13人
	女	9人	9人
	計	22人	22人
利用日数	男	4,693日	4,356日
	女	3,273日	3,514日
	計	7,966日	7,870日
平均 入居期間	男	10.08年	9.10年
	女	12.03年	11.04年
	計	11.04年	11.04年
最長 入居期間	男	19年	18年
	女	19年	18年

区 分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	51.5歳	50.5歳
	女	54.6歳	54.6歳
	計	53.2歳	52.2歳
最高年齢	男	76歳	75歳
	女	70歳	69歳
最低年齢	男	26歳	25歳
	女	43歳	42歳
出身地域	圏内	21人	21人
	圏外	1人	1人
	県外	0人	0人
平均区分		5.1	5.1

区 分		2020年度	2019年度
新入居者数	男	0人	1人
	女	0人	2人
	計	0人	3人
退居者数	男	0人	0人
	女	0人	2人
	計	0人	2人
入院者数	男	1人	0人
	女	0人	0人
	計	1人	0人
入院日数	男	52日	0日
	女	0日	0日
	計	52人	0人

入居者の障害程度区分		
区 分	2020年度	2019年度
障害程度区分1	0人	0人
障害程度区分2	0人	0人
50歳未満障害程度区分3	0人	0人
50歳以上障害程度区分3	1人	1人
障害程度区分4	5人	5人
障害程度区分5	6人	6人
障害程度区分6	10人	10人

入居前住居		
区 分	2020年度	2019年度
自 宅	0人	3人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	0人

退居者内訳		
区 分	2020年度	2019年度
死 亡	0人	2人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年	2019年
短期入所生活 介護事業	利用延人数	44	56	56	65	62	64	58	56	56	62	63	73	715人	786人
	平 均 人 数	1.5	1.8	1.9	2.1	2.0	2.1	1.9	1.9	1.8	2.0	2.3	2.4	2.0人	2.1人
	開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
生活介護	利用延人数	496	473	493	522	469	494	480	479	511	442	454	511	5,824人	5,580人
	平 均 人 数	22.5	20.6	24.7	22.7	21.3	23.5	20.9	22.8	23.2	22.1	22.7	23.2	22.5人	21.5人
	開 所 日 数	22	23	20	23	22	21	23	21	22	20	20	22	259日	259日
訪問介護事業	訪 問 回 数	47	63	61	62	69	76	72	59	72	66	67	73	787回	763回
	訪 問 延 時 間	67	82	84	82	88	103	92.5	77.5	92	86	85	95.5	1,034.5時間	1,001.0時間
身体障害者相談事業	利 用 件 数	379	279	270	281	277	290	340	310	234	395	356	404	3,815件	2,389件
ワークショップマナ	利 用 人 数	546	590	573	523	507	538	581	537	571	535	459	594	6,554人	5,813人
	開 所 日 数	22	21	21	23	20	21	22	21	21	21	20	21	254日	254日

Ⅴ.職員の状況

職 種		配置		男		女		就職		退職		異動		比較増減	
		常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤
施 設 長		(1)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員		(3)	0	(1)	0	(2)	0	0	0	0	1	1	0	1	-1
サービス管理責任者		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接 処遇 職員	生活支援員	7	4	5	1	2	3	2	0	0	0	-2	0	0	0
	看護職員	1	0		0	1	0	0	0	0	0		0	0	0
	機能訓練職員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		(2)	(7)	(1)	(1)	(1)	(6)	0	2	0	2	0	0	0	0
医 師		0	(1)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	(6)	0	(3)	0	(3)	0	1	0	1	0	0	0	0
小 計		11(6)	4(14)	7(3)	1(5)	4(3)	3(9)	2	3	0	4	-1	0	1	-1
在宅 事業	相談支援事業	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	ワークショップマナ	7	1	1	0	6	1	0	0	0	0	-1	0	-1	0
	訪問介護	(2)	(2)	0	0	(2)	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	9(2)	2(2)	2	0	7(2)	2(2)	0	0	0	0	-1	0	-1	0
合 計		20(8)	6(16)	9(3)	1(5)	11(5)	5(11)	2	3	0	4	-2	0	0	-1

* 現員は2021年3月31日現在 ()は兼務 就退職は2020年度内増減

Ⅵ.寄付金収入

区 分	件数	寄付金額
入 居 者	0件	0円
入 居 者 家 族	0件	0円
遺 族	0件	0円
在 宅	0件	0円
一 般	1件	5,000円
業 者	0件	0円
職 員	0件	0円
役 員	0件	0円
合 計	1件	5,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄 付 物 品	0件	0円

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 2020 年事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」を基盤として、行動規範を大切に、利用者の皆さんが、かけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるようにと支援を心がけた。
2. 始業時に職員と祈る主の祈りをもとに、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体になりつつある。

B. 運営方針について

1. 理念の実現の為、十字の園行動規範の具現化に取り組む。

各部署・各委員会会議にて行動規範の唱和を位置付け、又、ハンドブックを利用し行動規範の大切さや理念の継承の大切さを確認し合った。コロナ禍で外部からの訪問が禁止になり、礼拝奉仕者の牧師が来られない中、懇話会と名前を変え聖書・理念にふれ合う場を設けた。

2. 伊豆高原十字の園敷地への移転新築を含めて、市と協議し具体化出来るよう進めて行く。

高齢者福祉課課長及び課長補佐より伊豆高原十字の園敷地への移転新築は当面見送りとし、既存施設を数年掛けて大規模修繕・設備更新等を行う方向性が示された。また、総括理事も加わり市課長・課長補佐と協議の場が持たれ今後も定期的に話し合いを継続する。

3. 伊豆高原十字の園と連携し、経理部門・在宅事業のあり方を検討し、効率化を図る。

在宅事業は、伊豆高原十字の園との定期的交流が定着し始め、職員の視野が広がり送迎等での効率化が進んだ。

4. 伊豆高原十字の園と合同の食事提供を検討し、効率化を図る。

伊豆高原十字の園での真空調理の品数を増やし、効率的提供を考えて実行したが、コロナ禍で時間差の食事提供等の対応に追われ、効率化の効果は十分出なかった。

5. 一年を通し、一人ひとりが健康で四季を感じられる施設作りに取り組む。

医務室が積極的に関わり各事業所との連携や助言をもとにした個々の健康維持を行った。また、密を避ける等の制限の中で四季を感じられる旬を生かした食事等の提供、玄関・集会室の装飾制作等の行事やレクリエーションを行った。しかし、外出支援はできず利用者には、迷惑を掛けた。

6. 職員のスキルアップを図り、魅力的な職場づくりに取り組む。

コロナ禍の中、外部研修の参加が思うように行かず内部研修会が中心となったが、職員同志がお互いに学び合うことでスキルアップが図れ、また、職員間の親密性も増し、関係性の向上につながった。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 養護老人ホーム

① 入居者一人々の当たり前の生活とは何かと、一緒に考え支援する。

職員が利用者と向き合い、関係性を作り上げる中、コロナ禍において新しい生活様式や制限について理解してもらい、その中で個々に希望要望を聞き取り実現させる事が出来た。

② 多職種との連携、専門職としての向上を図ります。

コミュニケーションを通して相手を知り、業務に繋げて来たが、それを継続させる事の難しさが見えて来た。ウェブ等の研修のみで実務的な専門職としての向上は不十分であった。

- ③ 入居者の高齢化に伴う、必要な助言・情報提供を入居者や家族に対して行い、安心して施設生活が出来るようにする。

支援室・医務室との間で情報共有に努め、家族は主に電話での連絡で報告を行った。入居者については個々に話を聞く時間を持つように心掛け安心して生活ができた。

- ④ 入居者の高齢化に伴い、嚥下困難等摂食に対して不安のある方への食事及び形態を配慮する。季節や行事にリンクしたメニュー作りを心掛け食事を楽しんで頂く。

食事に不安のある方へ食べやすくする等の創意工夫をした。コロナ禍で密を避けた行事食を提供した。旬を大切にして料理に季節感を盛り込み、目でも楽しむことが出来た。

- ⑤ 伊東・松崎地区の経理担当者の事務分担を明確にする。

伊東・松崎地区での経理事務分担を明確にし業務の効率化を目指したが、職員の退職等に伴い経理業務の基本業務の伝達に留まった。

2. ショートステイ事業

- ① 地域のセーフティーネットとして緊急時・通常時も含め常時体制を整え、利用に備える。

- ② 施設内の各部署との情報を共有できるよう関係機関との連携を深め利用者が安心・安全に生活できるよう支援する。

常時、ショートを受け入れできる体制を作り、利用者に対して得た情報は各部署に速やかに伝わるようにすることで、利用者に対する職員の対応も統一が図れ、安心・安全に生活を送って頂くことができた。

3. 生きがいデイサービス

- ① 伊東市の介護予防事業ということを念頭に置き、老人性のうつ・ひきこもり・やる気の低下を防ぐよう刺激を与え、新しい情報を取り入れ、様々なことに興味を持っていきいきと生活できるようなサービスをする。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、伊東市からの要請もあり5ヶ月半、通常活動を停止した。停止期間中は、利用者宅への電話連絡、脳トレ等の配布や訪問により安否確認を行った。通常営業時は室内レク、体操等を充実さ様々な事に興味をもって生活できるよう支援した。

4. 通所介護事業

1) 平和の杜

- ① 事業所の特性を活かし地域に根差した支援の場において、多職種で連携し利用者の個別のニーズに合わせたサービスを提供する。

地域との交流については開催することは出来なかった。多職種と協力しながら利用者が楽しむ機会を作り個々に合ったサービスを提供する事が出来た。

2) 一碧の杜「くつろぎの家」

- ① 地域の皆様が気軽に集える場所作りを目標とする。皆が寄り添って生活できるグループワーク的デイサービスに取り組み、平均9名以上の利用を目標として在宅利用者の増加を図る。

新型コロナウイルス感染症対策のための行動制限の中で密に成らない等の工夫をしながらサービス提供を行った。利用者の増加に向けて電話・空き情報等を関係機関へ伝えるなどの働きかけを行ったが増加は図れなかった。

5. 訪問介護事業

- ① 職員間や他職種との情報共有と連携を更に強化し、安心と満足感を得られるように努める。

職員間のコミュニケーションを今まで以上に持った結果、情報伝達がスムーズに成り、ケアプラン目標の共有、他職種への報告等を円滑に行う事ができ、利用者の安心には繋がったが、コロナ禍の影響もあり満足感は不十分となってしまった。

6. 居宅介護支援事業

- ① 本人家族が住み慣れた町や家で一日でも長く趣味や余暇を楽しむ余裕を持った生活ができるように医療福祉の各関係機関と連携し支援して行く。笑顔の多くなる寄り添った支援やサービスを行う。

本人家族が健康で一日も長く住み慣れた家で暮らせるように、受診の同行支援を増やし、主治医やサービス事業者と電話やメールで連絡を取り合い、情報の共有を進めることで、笑顔の多くなる寄り添った支援を心掛けた。しかし、レベル低下が著しく進んだ方や、在宅生活が困難となり施設等へ移行した方もおり、目標に対しては不十分であったと考える。

B. 利用実績

	養護 指定管理	特定施設	老人短期	生きがいデイ 指定管理	居宅支援	
利用定員	50人	24人	6人	15人	39人	
利用数延数	16, 235人	7, 782人	306人	1, 767人	402人	
1日平均利用者数	50.0人	21.3人	0.8人	13.1人	33.5人	
稼働率、稼働指数	88.9%	88.8%	13.9%	87.9%	85.8%	
稼働日数	365日	365日	365日	134日	12ヶ月	
単価(一人一日当たり)	7, 074円	1, 021円	3, 807円	11, 821円	12, 890円	
老人福祉・介護保険 事業収入(千円)	114, 861	7, 947	1, 165	20, 888	5, 182	
職員数(常勤換算)	16.4人	1.7人	0.2人	3.7人	1.0人	
	通所介護Ⅰ 平和の杜	通所介護Ⅱ くつろぎの家	(再掲) 特定通所	訪問介護	(再掲) 特定訪問	事業活動収入 職員数計
利用定員	15人	10人		27人		
利用数延数	2, 968人	1, 501人	1, 219人	11, 522時間	10, 921時間	
1日平均利用者数	11.5人	5.8人	5.4人	31.5時間	29.9時間	
稼働率、稼働指数	76.3%	57.9%				
稼働日数	259日	259日	259日	365日	365日	
単価(一人一日当たり)	8, 550円	8, 858円		2, 967円		
老人福祉・介護保険 事業収入(千円)	25, 377	13, 297		34, 226		224, 738
職員数(常勤換算)	5.5人	3.2人		5.3人		37.0人

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位；千円、未満切捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	230, 429	224, 738	224, 369	217, 358	6, 059	7, 379
施設整備による収支	0	0	180	1, 652	△180	△1, 652
その他活動による収支	20, 054	20, 000	24, 584	24, 580	△4, 530	△4, 580
当期資金収支					1, 529	1, 147

(収入について)

- ・老人短期；コロナ禍で利用者減、緊急利用者も少なく大幅な減収となった。

- ・通所介護平和の杜；長期入院や新規利用者が増えなかった事により当初予算より減となった。
- ・くつろぎの家；養護（特定）入居者で利用できる方が少なくなった事や在宅新規利用者が伸びなかった等で当初予算より減となった。
- ・生きがいデイサービス（指定管理）；コロナの影響で休止になり利用者人数は減となった。
- ・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援給付金により収入増となっている。

（支出について）

- ・人件費；職員の退職に伴う補充ができなかったため予算より減額となった。
- ・事業費；給食費、本人支給金、水道光熱費、燃料費の支出が抑えられたため当初予算より減少したが、感染症対策費用の増加により保健衛生費、消耗器具備品費が増えた。

2. 事業活動計算書の推移

（単位；千円、未満切捨て）

	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
サービス活動収益	223,181	223,513	220,325	224,049	219,217
サービス活動費用計	217,559	212,938	206,149	222,887	218,161
サービス活動増減差額	5,622	10,574	14,176	1,161	1,055
経常増減差額	5,715	11,308	14,333	1,536	1,254
特別増減差額	△4,180	△3,360	△3,838	△3,767	△3,300
当期活動増減差額	1,535	7,948	10,495	△2,230	△2,045

- ・サービス活動収益；新型コロナウイルス感染症緊急包括支援給付金が含まれているが、サービス活動収益は前年より減となった。
- ・サービス活動費用；常勤職員補充、契約職員Ⅰへの変更に伴い人件費が前年より増額となった。

3. 設備投資及び積立の状況

- ・伊東市による老朽化した設備・機器の更新工事
大型洗濯機1台、大型エアコン（会議室・厨房内各1台、居室（城ヶ崎棟6～9・小室棟11、厨房休憩室）計6台）、給水ユニット、在宅洋式トイレ、厨房内大型換気扇2機
- ・通所介護平和の杜の大型エアコン整備
- ・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援給付金による電解水生成装置、パソコン3台整備
- ・リースにより栄養ソフトの更新
- ・車いす対応車両（養護）・居宅車両のリース、防災用自家発電機の購入を計画したが、コロナの影響で収入が見込めなかった為、来年度再度全体の車両等中期の購入計画を整備する。

4. 借入金の状況

- ・拠点区分間長期借入金
本部拠点へ2,000万円を返済し、再度本部拠点から2,000万円を借り入れた。

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 老朽化資産の更新（電話機器、車両等）、伊東市による修繕及び更新。
2. 養護老人ホームの個室化。
3. 在宅事業の稼働率アップと収入増。

IV. 利用者の状況（2020年度）

施設名 伊東市立養護老人ホーム

1. 施設利用の状況（基準日：3月31日）

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	11人	14人
	女	34人	34人
	計	45人	48人
利用日数	男	3,895日	4,538日
	女	12,340日	12,168日
	計	16,235日	16,706日
平均入居期間	男	3.8年	6.0年
	女	6.1年	5.6年
	計	4.9年	5.8年
最長入居期間	男	14.1年	27.1年
	女	15.6年	17.9年

区分		2020年度	2019年度
平均年齢	男	79.9歳	82.8歳
	女	84.3歳	83.2歳
	計	82.1歳	83.0歳
最高年齢	男	92歳	94歳
	女	96歳	96歳
最低年齢	男	71歳	71歳
	女	70歳	69歳
出身地域	圏内	44人	48人
	圏外	0人	0人
	県外	0人	0人
平均介護度		2.0	2.5

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	4人	3人
	女	4人	3人
	計	8人	6人
退居者数	男	7人	1人
	女	5人	1人
	計	12人	2人
入院者数	男	5人	2人
	女	6人	5人
	計	11人	7人
入院日数	男	77日	18日
	女	148日	164日
	計	225日	182日

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	22人	22人
要 支 援	1人	2人
要介護度1	6人	6人
要介護度2	6人	6人
要介護度3	5人	8人
要介護度4	2人	2人
要介護度5	2人	2人

入居前住居

区 分	2020年度	2019年度
自 宅	5人	5人
病 院	2人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	1人	1人

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	8人	2人
帰 宅	1人	0人
病院へ転出	2人	0人
他施設へ転出	1人	0人
そ の 他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年度	2019年度
短期入所 生活介護 (介護保険外)	利用延人数	33	3	1	0	24	2	13	6	73	117	26	8	306人	941人
	平均人数	1.1	0.1	0.0	0.0	0.8	0.1	0.4	0.2	2.4	3.8	0.9	0.3	0.8人	2.6人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
生きがい デイサービス 事業	利用延人数	0	0	298	288	255	272	295	242	0	0	0	117	1,767人	3,196人
	平均人数	0.0	0.0	13.5	13.7	12.8	12.4	13.4	13.4	0.0	0.0	0.0	13.0	13.2人	14.7人
	開所日数	0	0	22	21	20	22	22	18	0	0	0	9	134日	218日
通所介護事業 (併 設)	利用延人数	278	243	261	287	263	244	250	248	231	187	204	272	2,968人	3,240人
	平均人数	12.6	11.6	11.9	12.5	12.5	11.1	11.4	11.8	10.5	9.4	10.2	11.8	11.5人	12.4人
	開所日数	22	21	22	23	21	22	22	21	22	20	20	23	259日	261日
訪問介護事業	訪問回数	3116	3218	3157	3220	2683	3211	3338	3328	3027	3426	3177	3162	38,063回	38,495回
	訪問延時間	929	964	947	965	1,015	970	1,010	924	912	1,013	937	939	11,522時	11,493時
居宅介護支援事業	件 数	27	36	31	32	33	33	33	35	35	34	34	39	402件	361件
通所介護事業 (単 独)	利用延人数	131	129	123	129	119	124	138	124	125	112	117	130	1,501人	1790人
	平均人数	6.0	6.1	5.6	5.6	5.7	5.6	6.3	5.9	5.7	5.6	5.9	5.7	5.8人	7.8人
	開所日数	22	21	22	23	21	22	22	21	22	20	20	23	259日	230日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職 転入		退職 転出		比較増減	
	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤
	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤
施 設 長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
相 談 員	1(1)	1	(1)	0	1	1	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	1	(1)	0	0	1	(1)	0	0	0	0	0	0
直接 処遇 職員	生活支援員	5	0	2	0	3	0	1	0	0	1	0
	特定介護員	4	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0
	看護職員	3	0	0	0	3	0	1	0	0	1	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
調 理 師・員	4	3	0	0	4	3	0	0	0	0	0	0
医 師	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	19	7	6	1	13	6	3	0	0	1	3	0
在宅 事業	生きがいデイ	2(1)	3(3)	1(1)	1	1	2(3)	0	0	0	1	0
	通所事業(併)	2(1)	4(2)	1	0	1(1)	4(2)	0	0	0	0	0
	訪問介護	1(8)	0	(3)	0	1(5)	0	0	0	0	0	0
	居宅支援	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	通所事業(単)	2(2)	2	1(1)	1	1(1)	1(1)	1	0	0	1	0
小 計	7	10	2	2	5	8	1	0	0	1	1	0
合 計	26	17	8	3	18	14	4	0	0	2	4	0

* 現員は2021年3月31日現在 就退職は2020年度内増減 ()は兼務

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	1件	10,000円
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	1件	20,000円
在宅	0件	0円
一般	2件	205,343円
合計	4件	235,343円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）第2アドナイ館 2020年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

理念を意識したケアを目指し、個々の理念のとらえ方について、アンケートを実施し、個別面談を行った。コロナにおいて礼拝を休止せざるを得ない時期が続き、代替えの取り組みもできなかった。

B. 運営方針について

1. 地区として一体化を進め、理念・行動規範に沿った信頼し合えるチーム作りをする。
 - ・前年度より継続し、浜松地区3施設合同の委員会活動に取り組み一体感を図った。
 - ・3施設相談員会議が定着し、入居者の情報共有を図り、ニーズに応じた施設移動に取り組むことができた。
2. 老朽化した建物の建て替えに向けた準備を一体的に進める。
 - ・特養の建て替え計画を検討する中で、地区一体化をコンセプトに掲げて話し合いを重ねてきたが、具体的な計画策定には至らなかった。

II 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. ケアハウス

職員同士、利用者、家族、地域のそれぞれの関係性を改善し信頼しあう関係性を作る。

- ・会議体や申し送りの改善などを行い、話し合いのできる体制づくりに取り組んだ。業務についての話し合いはなされたが、ケアの質や意識向上についての取り組みにまで至らなかった。コミュニケーション不足が解消されておらず、信頼関係が築けたとは言い難い。
- ・サービス担当者会議に家族が参加し、各専門職や担当者が直に家族と意見を交わせる場を設けた。コロナ禍において面会制限となり家族との関係づくり、情報の共有について困難さがあった。オンライン面会や家族へのはがきなどの取り組みを行った。バザー、家族会は中止となった。

ケアハウスの連携の中で一体的な運営を行う。

- ・施設長が交代し、アドナイ館との兼任となった。入居者情報が共有化され入退居の連携がスムーズに行われたが、運営面での一体化に向けた具体的な取り組みはできなかった。今後、特養も含めた浜松地区の一体化への取り組みの中で、ケアハウスとしての一体化のビジョンを検討していく。

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

地区一体の取り組みの中で、体操教室からセルフわん、ぷらすワンへの流れを作る。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響があり、他事業所での体操教室の実施、家族会は実施できなかった。
- ・利用者の平均介護度が1.0を下回り事業継続が困難な状況になったため、セルフわんを土曜日に変更し、月曜日の午前中に介護保険サービスを開始した。利用者の多くが

要支援、事業対象者の方となり現状に合わせたサービス内容や人員配置を検討している。

3. 十字の園 居宅支援事業所

地域に根差し介護の相談窓口として、信頼され選ばれる事業所になる。

- ・障害支援事業所からの紹介ケースを積極的に受託し、一定の評価をもらい継続紹介される関係性を作れた。ケアマネジメントの一連の流れを実践プログラムとし、経験1年程の職員に指導し理解を深めた。利用者数も増え地域に信頼され選ばれる事業所に近づく事ができた。
- ・主任ケアマネの講習会が中止となり、資格取得ができず加算取得できていない。

4. ヘルパーステーションほそえ

利用者の声やお互いの気づきを共有し、サービスの質の向上を図る。

- ・統一したケアを提供するために手順書の作成を進め、利用者の変化に対して気づきを共有でき、サービスの質の向上につなげた。根洗荘と協力して柔軟に利用者対応を行えるように取り組みを進めた。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

目指すケアを明確化し、のんきの良さを地域に発信する。

- ・あんきと統合後、新たな職員と一緒に目指すケアについて共有した。
- ・機関誌を定期的に発行し、地域・家族へ、のんきの良さを発信した。
- ・地元自治会との交流を計画していたが、コロナ禍により機会が持てなかった。
- ・年度当初は、あんきの利用者がのんきを利用することにより利用者数は増えたが、新規利用者を増やすことができず、稼働率は目標を大きく下回り、人員配置の見直しも行ったが、事業継続が困難な状況に陥っている。

6. げんきプロジェクト根洗荘

周知活動を行い、地域や他法人居宅に根洗荘の取り組みを発信する。

- ・新型コロナ対策による休業期間中に他の介護保険サービスに移行された方や利用控えがあり、利用者が減った。SNSや自治体広報誌等で取り組みを発信したが、特徴である自由な活動（外食や買い物など）ができにくくなり利用増に繋がっていない。管理者をヘルパー事業所と兼務として一体的運営に取り組んだ。

7. 認知症対応型通所介護 あんき

のんきと統合し、事業を休止した。

B. 利用実績

(職員数は 2020 年度末月現在の数とする)

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ぷらすワン	認知症通所 介護のんき
利用定員	20 人	20 人	20 人	12 人
利用者延数	7,300 人	6,708 人	3,737 人	2,113 人
1 日平均利用者数	20 人	18.3 人	15.7 人	6.8 人
稼働率、稼働指数	100.0%	91.8%	78.6%	56.8%
稼働日数	365 日	365 日	237.5 日	310 日
単価（一人一日当たり）	7,711 円	7,161 円	6,080 円	12,655 円
老人福祉・介護保険事業収入	56,294 千円	48,037 千円	22,724 千円	26,741 千円
職員数（常勤換算）	15.8 人		5.4 人	5.1 人
	居宅介護 支援	訪問介護	根洗荘	事業活動 収入合計
利用定員	157.5 人/月	—	—	
利用者延数	1,565 人	6,144 回	2,597 人	
1 日平均利用者数	130.4 人/月	512.0 回/月	11.9 人	
稼働率、稼働指数	82.8%	—	—	
稼働日数	12 ヶ月	258 日	217 日	
単価（一人一日当たり）	11,773 円	4,016 円/回	2,262 円	
介護保険事業収入	18,426 千円	24,677 千円	5,877 千円	202,776 千円
職員数（常勤換算）	5.0 人	4.8 人	1.9 人	38.0 人

C. 資金収支、財務状況

1 資金収支予算達成状況

(単位：千円、未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	221,495	203,355	223,530	216,678	△2,035	△13,322
施設整備による収支	0	0	9,862	10,125	△9,862	△10,125
その他活動収支	17,800	25,100	5,870	6,782	11,930	18,318
当期資金収支					33	△5,130

(当初予算との増減差額が大きい要因)

・事業活動による収支

収入 18,139 千円減：各事業の利用実績が目標値に達しなかったため 21,092 千円減。

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金により 2,955 千円増。

支出 6,851 千円減：職員の異動や退職等により人件費 6,938 千円減。

・その他の活動収支

収入 7,300 千円増：積立取崩 1,200 千円増、本部からの繰入 6,100 千円増。

2 事業活動計算書の推移

(単位：千円、未満切り捨て)

	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度	2016 年度
サービス活動収益計	202, 141	217, 679	279, 562	252, 516	256, 660
サービス活動費用計	231, 926	268, 773	274, 897	277, 556	277, 103
サービス活動増減差額	△29, 784	△51, 093	4, 664	△25, 039	△17, 442
経常増減差額	△30, 045	△50, 452	3, 726	△26, 460	△18, 907
特別増減差額	23, 899	28, 429	0	△81	0
当期活動増減差額	△6, 145	△22, 022	3, 726	△26, 542	△18, 907

(2019 年との差額が大きい要因)

- ・ サービス活動収益は、介護職員等特定処遇改善加算の計上月数が増えた（2019 年度は 10～3 月の 6 ヶ月分。2020 年度は 12 ヶ月分）ことや新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金受領など増益に繋がる要因があったが、各事業の利用実績が目標値に達しなかったため 15, 538 千円減となった。
- ・ サービス活動費用は、介護職員等特定処遇改善手当の支給期間が長くなった（2019 年度は 1～3 月の 3 ヶ月支給。2020 年度は 12 ヶ月支給）ことや新型コロナウイルス感染症対策のための費用が増えたが、職員の異動や退職等により人件費が減少したこともあり 36, 846 千円減となった。
- ・ 特別増減差額は、拠点区分間繰入金収益 8, 939 千円減と前年度にスプリンクラー補助金 4, 409 千円を「その他の特別損失」で会計処理したため 4, 529 千円減となった。

3 設備投資及び積立金の状況

- ・ 設備投資：乾燥機 2 台 184 千円、玄関手洗い場 156 千円、ipad9 台 416 千円
- ・ 積立金：長期預り金積立資産取崩収入 1, 200 千円
長期預り金積立資産支出 900 千円

4 借入金及び借入金償還の状況

- ・ 元金償還：9, 862 千円、利息支出 574 千円、年度末残高 91, 108 千円
- ・ 拠点区分間長期借入金返済 5, 330 千円、年度末残高 107, 330 千円

III. 対処すべき課題

- ・ 在宅事業の経営正常化。

IV. 利用者の状況（2020年度）

1.施設利用の状況

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	2人	2人
	女	18人	18人
	計	20人	20人
利用日数	男	732日	325日
	女	6,588日	6,294日
	計	7,320日	6,619日
平均入居期間	男	1.7年	0.6年
	女	2.8年	2.8年
	計	2.7年	2.6年
最長入居期間	男	2.0年	1.0年
	女	9.7年	9.6年

入居者の介護度区分

区 分	2020年度	2019年度
自 立	1人	1人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	8人	11人
要介護度2	5人	5人
要介護度3	4人	2人
要介護度4	1人	1人
要介護度5	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年	2019年
通所介護事業 （地域密着型）	利用延人数	295	321	289	339	312	293	281	328	324	310	301	344	3,737人	3,633人
	月平均人数	14.8	16.5	15.6	17.0	15.6	14.7	14.8	15.6	16.2	16.8	16.7	15.0	15.7人	15.8人
	開 所 日 数	20	19.5	18.5	20	20	20	19	21	20	18.5	18	23	237.5日	230.5日
通所介護事業 （認知症）	利用延人数	229	193	210	198	118	124	213	201	197	157	113	160	2,113人	2,259人
	月平均人数	8.8	7.4	8.1	7.3	4.5	5.2	8.2	7.4	7.6	6.3	4.7	5.9	6.8人	7.3人
	開 所 日 数	26	26	26	27	26	24	26	27	26	25	24	27	310日	310日
訪問介護事業所	訪問延回数	513	473	526	519	464	503	536	531	565	504	471	547	6,152回	6,135回
	訪問延時間	427.31	427	380	430	457	400	389.6	425	405	432	426.25	492	5,091時	5,269時
居宅介護支援事業所	月作成件数(介護)	164	167	160	172	170	165	160	166	163	175	168	173	2,003件	1,323件
	月作成件数(支援)	53	52	54	54	61	57	50	51	53	58	59	62	664件	485件
在宅支援自主事業	利用延人数	104	299	167	234	229	235	112	227	257	223	222	288	2,597人	3,729人
	月平均人数	13.0	13.6	11.1	10.6	11.5	11.8	11.2	14.2	12.2	11.2	11.1	12.5	12.0人	14.7人
	開 所 日 数	8	22	15	22	20	20	10	16	21	20	20	23	217日	253日

V. 職員の状況

職種		配置		男		女		就職 転入		退職 転出		比較増減	
		常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤
施 設 長		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員		1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
生活相談員		1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	-1	0
特定 施設 入居者 生活 介護	介護支援専門員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	8	2	1	0	7	2	2	0	2	0	0	0
	看護職員	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
	機能訓練職員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科衛生士		0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
小 計		15	5	2	1	13	4	3	0	4	0	-1	0
在宅 部門	地域密着通所	3	4	1	1	2	3	0	1		1	0	0
	認知症通所	2	8	1	2	1	6	0	0	1	1	-1	-1
	居宅支援	5	0	3	0	2	0	1	0	1	0	0	0
	訪問介護	3	6	0	0	3	6	1	1	0	2	1	-1
	保険外通所	1	5	0	1	1	4	1	1	0	2	1	-1
小 計		14	23	5	4	9	19	3	3	2	6	1	-3
合 計		29	28	7	5	22	23	6	3	6	6	0	-3

* 現員は2021年3月31日 :就退職は2020年度内増減

施設名 第2アドナイ館グループ

区分		2020年度	2019年度
入居者数	男	0人	1人
	女	4人	8人
	計	4人	9人
退居者数	男	0人	1人
	女	5人	8人
	計	5人	9人
入院者数	男	0人	0人
	女	4人	7人
	計	4人	7人
入院日数	男	0日	0日
	女	127日	125日
	計	127日	125日

退居者内訳

区 分	2020年度	2019年度
死 亡	2人	6人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	2人	3人
そ の 他	0人	0人

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	4件	140,000円
遺族	1件	100,000円
在宅	0件	0円
一般	1件	5,000円
業者	0件	0円
職員	2件	20,000円
役員	0件	0円
合計	8件	265,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円